

信頼されるものづくりで、さらに上を。

環境・社会報告書 2005

2004.4～2005.3

NHKニッパツ
日本発条株式会社

「環境の世紀」におけるCSR

ニッパツは、持続的発展が可能な社会づくりを担います。

地球規模の環境問題は年々多様性と重大性を増しています。企業活動をはじめ人類の活動そのものの影響により、地球温暖化やオゾン層の破壊、森林破壊、世界各地で頻発する異常気象などが、地球の許容限度を超えることによって引き起こされています。「繁栄」と「発展」は人類の共通目標ですが、環境破壊の進行は、地球自らが持つ自浄作用の限度を超え、私たちの未来を脅かすまてになってきました。

急激な経済成長の一方で地球規模の環境問題が進行した20世紀に対して、21世紀は「環境の世紀」と言われています。ものづくりを行う企業は、まずその社会的責任を強く認識し、生産活動や製品が地球に与える負荷を最小化するための最大限の努力で、持続的発展が可能な社会づくりを担っていく必要があります。

私たちニッパツは、自動車、情報通信、産業・生活など多くの分野に携わる企業として、「環境保全活動の継続的な推進」を経営の重要課題ととらえ、生産活動における環境負荷低減と、環境に配慮した製品開発・技術開発に、全社一丸となって取り組んでまいりました。さらに、トップから従業員一人ひとりにまで環境問題に関する意識改革と啓発活動を行い、2001年4月までに全工場でISO14001を認証取得し、現在は全グループ企業での認証取得をめざした活動に取り組んでおります。

ここに、当社第5回目となる2005年度版環境報告書を発行いたします。今回より社会性報告を加え、タイトルを「環境・社会報告書」と改めました。昨今、「企業の社会的責任」をめぐる議論が注目を集め、CSR (Corporate Social Responsibility) という考え方が浸透しつつあります。2005年4月、当社は2007年度を最終年度とする中期経営計画を策定し、CSRの観点に立った社内改革に着手しました。この報告書では、当社が一企業として果たすべき社会的責任について、その概要を開示いたします。

この報告書をお読みいただき、今後の活動に向けた皆様の率直なご意見とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

2005年9月
日本発条株式会社
代表取締役社長

佐々木 謙二



ニッパツは、「社訓」が基本的な社会の規範であると
従業員一人ひとりが理解し、
「企業理念」に沿った行動と事業活動で
社会的責任を果たします。

社 訓

躍進のニッパツ
根性のニッパツ
みんなのニッパツ

企 業 理 念

グローバルな視野に立ち
常に新しい考え方と行動で
企業の成長をめざすと共に
魅力ある企業集団の実現を通じて
豊かな社会の発展に貢献する

編集方針

この報告書は、環境省発行「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」を参考に作成しました。投資家、株主、取引先、工場周辺の方々などを対象としています。また2005年度版よりタイトルを「環境・社会報告書」に改め、社会性の情報拡充を図りました。

報告対象範囲

この報告書は、原則として2004年4月から2005年3月のニッパツ(国内関連会社の活動も含む)の事業活動を対象としています。また発行が9月のため、大きな進捗については2005年4月以降の活動も掲載しています。

C O N T E N T S

トップコミットメント	1
ニッパツの経営ビジョン	3
2004年度環境・社会性活動ハイライト	3

ニッパツの事業活動

事業活動と環境・社会との関わり

事業活動とライフサイクルフロー	5
-----------------	---

製品開発と技術開発

自動車分野	7
情報通信分野	9
産業・生活分野	10

環境報告

環境マネジメントシステム

環境ボランティアプラン	11
環境保全推進体制	12
ISO14001への対応	13
環境監査	14
環境教育と啓発活動	15
環境会計	16

環境パフォーマンス

省エネルギー、CO ₂ 排出量の削減	17
循環型社会への取り組み	18
環境負荷物質の管理と削減	19
国内関連会社の取り組み	20

社会性報告

企業としての社会的責任

コーポレート・ガバナンス	21
--------------	----

ステークホルダーへの姿勢

顧客／サプライヤー	23
従業員	24
地域社会	25
ニッパツを囲む皆様の声	27

データ集

事業活動の歩み	28
工場別サイトデータ	29
国内関連会社の状況	33
ニッパツ会社概要	34

中期経営計画

当社は、2005年度からスタートした中期経営計画を社内外に周知し、その目標達成に向け事業活動を行っています。

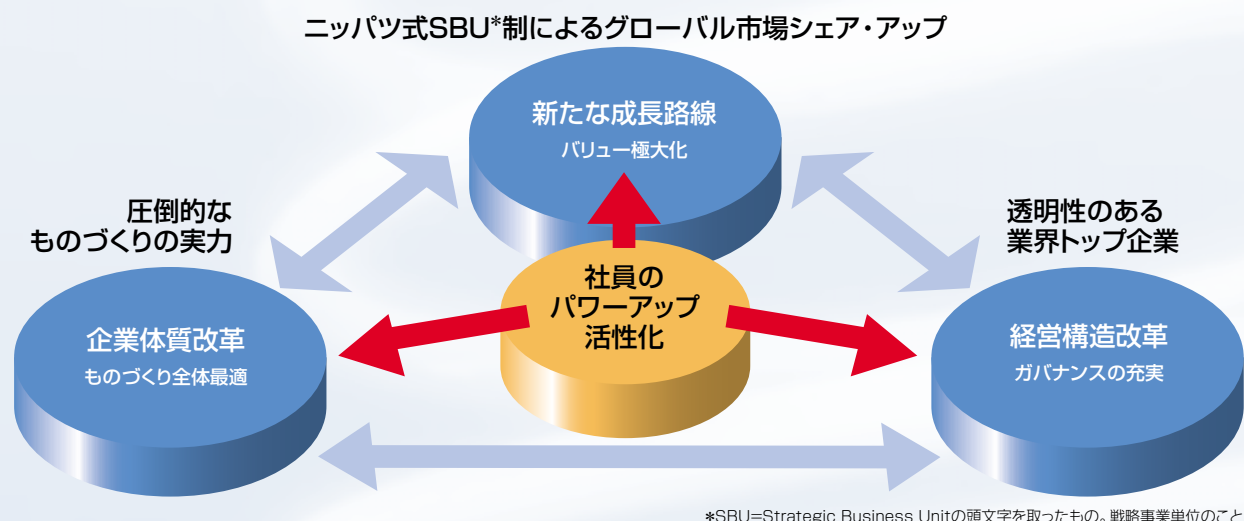
中期経営計画のねらいと3つの施策

前回の中期経営計画（2004年度を最終年度とする3カ年計画）は、厳しい事業環境を想定したスリムな体質づくりがメインでしたが、今回の中期経営計画では、「さらに上、目指そう。Upward07」をキャッチフレーズに、慎重ながらも新たな拡大をめざし、そのための経営資源の配分を適切に行うことが重要と考えています。

今回の中期経営計画では、3つの大きな基本方針を

掲げています。第1は「新たな成長路線」です。2004年度に対して16%増の連結売上高を目標とします。第2は「企業体質改革」です。ニッパツグループのものづくりの高度化をさらに進め、永続的に発展する企業グループをめざします。第3は「経営構造改革」です。コーポレート・ガバナンス（▶P21）の充実を通して、本格的なCSRの推進が始まっています。

中期経営計画概念図



2004年度環境・社会性活動ハイライト

横浜事業所にコージェネ設備を導入

横浜事業所のコージェネレーション設備が完成し、2004年12月から稼働を開始しました。クリーンな天然ガスを使用し、自社での発電と廃熱利用により、いっそうの省エネルギーが進みます。原油換算で10%の省エネルギーを見込んでいるほか、CO₂排出量も15%削減できます。また排熱は、シートの生産、懸架ばねの塗装処理、冷温水の供給、冷暖房などに使用します。



稼働を開始したコージェネレーション設備



12月7日、当社幹部と工事関係者が出席して行われた竣工式

厚木工場が「かながわ地球環境賞」を受賞

厚木工場が「平成16年度かながわ地球環境賞」を受賞しました。一昨年の横浜事業所に続く受賞で、ISO14001の認証取得、ゼロエミッション活動、省エネルギー活動、CO₂排出量の削減などの取り組みが評価されたものです。

2004年12月19日、横浜市技能文化会館で、神奈川県とかながわ地球環境保全推進会議の主催により表彰式が行われました。当社は厚木工場を代表して荒木工場長が表彰状を受け取りました。



表彰を受ける荒木工場長（左）

経営構造改革とステークホルダーへの姿勢

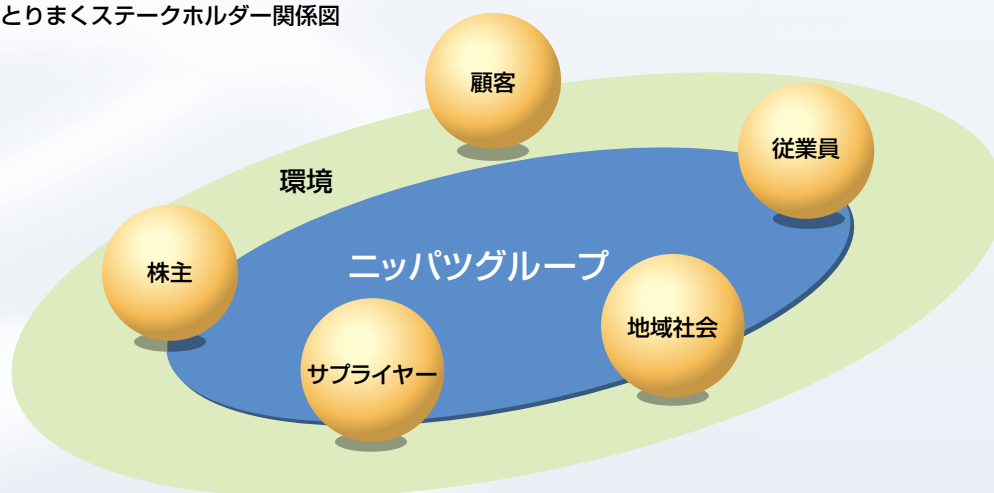
当社はグループのガバナンス体制を再構築し、コンプライアンスを重視した経営をめざします。

まず、コーポレート・ガバナンスの見直しとして、執行役員制を導入しました（2005年6月29日より）。第2に、コンプライアンス重視の経営として、CSRの視点に立ち、グローバルに広がるステークホルダーの方々すべてから受け入れられる企業行動をめざします。第3に、リスクマネジメントの強化として、リスクの

正しい把握と管理を行います。第4に、本格的IRの実施として、企業価値向上に向けたグループとしての情報発信・管理を行います。

また、株主だけでなく、顧客、サプライヤー、従業員、地域社会などのステークホルダーの方々に対して、当社関連情報をさらに速やかに開示し、良好な関係が維持できるよう努力していきます。

■ニッパツをとりまくステークホルダー関係図



偽造を判別できるブランドラベルを開発

ブランドネームや品質表示用に縫い付け、偽造防止効果の高い繊維ラベル「アルタテックス」を、大手合成繊維メーカーのクラレと共同で開発し、2月に発売しました。アルタテックスはビュアにより真偽判定が手軽にできることが特長です。ブランド保護やニセモノ対策が必要な洋服、バッグ、靴、ぬいぐるみなどの衣料・雑貨での使用が見込まれます。



写真左のように、肉眼で見えるたて線部が、専用ビュアでのぞくと、写真右のように別の色に変化して見える



カラー、サイズ、形状などを自由に選べるアルタテックスのバリエーション

「第1回PRTR大賞」で奨励賞を受賞

1月31日、社団法人環境情報科学センター主催の「平成16年度PRTR大賞 企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰」とシンポジウムが東京都内のホテルで開催され、当社は奨励賞を受賞しました。

PRTR大賞は今年度創設され、企業の化学物質のデータ管理や地域住民への理解促進活動の優れた事例を表彰するものです。当社は研究開発部門を中心に、化学物質の管理（P19）に努めており、日頃の成果が認められました。

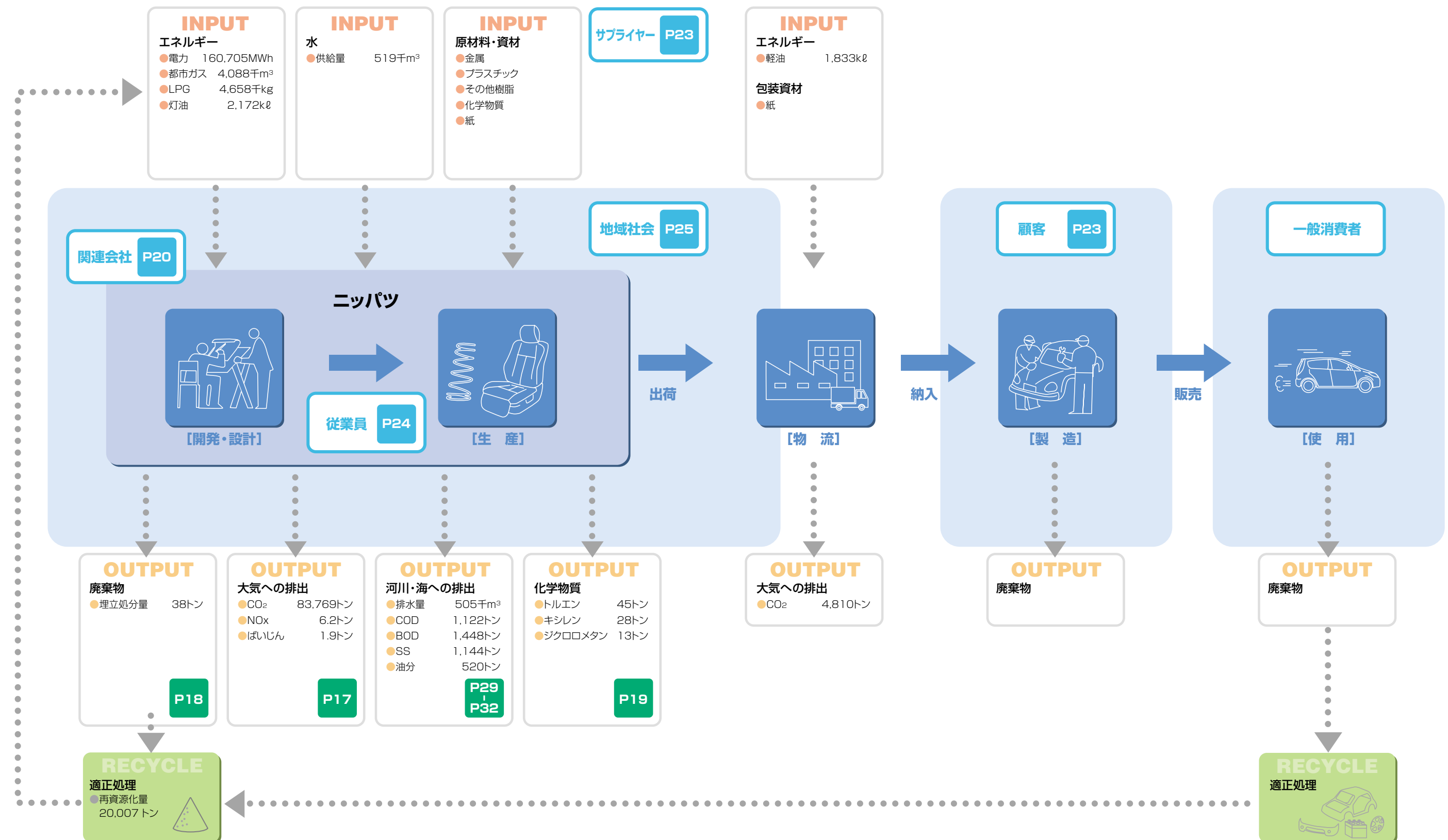


表彰を受ける当社安全環境部の徳永さん(左)

当社は、すべての事業活動をライフサイクルでとらえ、環境負荷の低減に取り組むとともに、製品開発においても、環境性能や安全性、公共性などに配慮したものづくりに努めています。

事業活動とライフサイクルフロー

事業全体をライフサイクルでとらえ、インプット、アウトプットをできる限り定量的に把握することで、環境負荷の低減に取り組んでいます。また、廃棄物のリサイクルなど通じて、循環型社会の実現をめざします。



ニッパツは、自動車、情報通信、産業・生活のそれぞれの分野で、高品質かつ環境に配慮したもののづくりに取り組み、顧客に満足される製品を提供しています。

自動車分野

環境、安全、省エネルギー、高機能、快適性など、先進テクノロジーでクルマの未来を提案します。

エンジン

バルブスプリング

高速で開閉するエンジンバルブを支える高品質のばねです。

耐久性 **安全性**

高強度材料を用いて、ばねの耐久性を高めるための加工を行っています。



パワートレイン

皿ばね／波形ばね／アーク形ばね

MTクラッチやATミッションなどの用途に合わせて開発したばねです。

耐久性 **快適性**

荷重のバラツキが極めて小さなばねおよび振動吸収に優れたばねが使われています。



シート、内・外装品

アクティブヘッドレスト付きスポーティシート

後突時における乗員の後方移動を利用してヘッドレストを前方に動かし、乗員頭部を早期に支持することで鞭打ち傷害の危険性を低減するシートです。

安全性 **快適性**

メカ式では鞭打ち傷害の低減性能で世界トップレベルのシートです。



懸架ばね

アキュムレータ

SUV・トラック用ブレーキ倍力装置に使用され、安全性の向上や燃料ポンプに使用され環境保全に役立っています。

メンテナンスフリー **耐久性**

安全性 **環境保全**

金属ベローズで封入ガスの漏れを防ぎ、脈動の吸収、蓄圧に優れたメンテナンス不要の製品です。



シート、内・外装品

アームレスト用軸ロック

シートのアームレストを任意の角度に調節できる製品です。

耐久性 **安全性**

ばねのシャフトへの巻き付けを利用した製品で、スムーズな操作性と高トルクとして無段階での角度調整機能を実現しました。



懸架ばね

スタビライザ／トーションバー／ラジラスロッド

スタビライザはコーナリングや車線変更時の車の傾きを抑えるために必要なばねです。また、トーションバーは主にピックアップトラックに採用されている直棒のばねです。

軽量化 **操縦安定性** **環境保全**

スタビライザには中空化したものも多く、軽量、高強度化と安定した操縦性を実現しています。



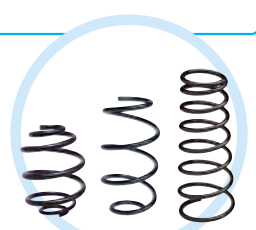
懸架ばね

コイルばね

乗用車やミニバンを中心に最も広く使用されているばねで、路面からの振動や衝撃を吸収して、快適な乗り心地を提供します。

軽量化 **快適性** **環境保全**

軽量化を追求した高強度ばねにより、省資源、燃費向上に貢献しています。



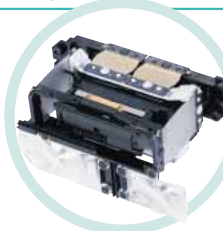
安全・環境システム

車載用レーザレーダアクチュエータ

衝突防止装置の車間距離検出用レーザレーダのレーザ光を左右上下の二次元に走査する駆動装置です。

安全性 **環境保全** **耐久性**

薄板ばねと電磁コイルを組み合わせた摺動部を持たない独自の構造で、上下左右自在の方向に高速走査が可能であり、高い耐久性と信頼性を実現しています。



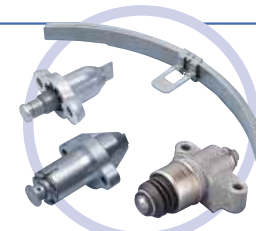
エンジン

チェーン・ベルトテンショナ

エンジンのタイミングベルトやチェーンの張力を最適に保つ製品です。

耐久性

ばねを用いることによりチェーン（ベルト）の振動防止にも役立っています。



シート、内・外装品

スーパーシール／シート

クルマの内・外装の止水、制振、吸音に用いる特殊ポリウレタン製品です。

止水性

ソフトでフィット性が良く、高い復元力で安定した止水性を発揮します。



情報通信分野

高度情報社会の進展を支える超精密加工技術やセキュリティ関連製品の高い信頼性で社会に貢献します。

HDD関連製品

トップカバー

ケースの気密性を保つために精度の高い平面度を有した製品です。

高信頼性

クリーンで耐食性にも優れています。

ガスケット(商品名ニッパレイ)

ケースの気密性を保つ厚み精度の高いパッキン材です。

低過気性 **低発ガス性**

HDD内部を保護するため気密性に優れ、歪みにくく、有害なガスを発生しにくい特性を持っています。

キャリッジ用部品

磁気ヘッドをデータの記録・読み取り位置へ移動させるアクチュエータの部品です。

高信頼性

クリーンで寸法精度や平行度に優れた製品です。

トップカバー

ガスケット

キャリッジ用部品

サスペンション

クランプリング

ベース

サスペンション

データの記録・読み取り用磁気ヘッドを支持する高精度の精密ばねです。

高信頼性

増大するディスク容量に対応し、データを素早く正確に読み書きするため、高精度に加え、振動に強い独自の製品を開発しています。

クランプリング

ディスクの固定用リングで、ディスクとの接触部は高精度な平面に仕上げられています。

高信頼性

クリーンで押さえばねとしての役割も求められている製品です。

ベース

磁気ディスクやモータを搭載する気密性の高い精密プレス製品です。

高信頼性

クリーンでミクロン単位の形状精度が求められる精密製品です。



情報通信、半導体製造装置関連製品

半導体検査用マイクロコンタクトユニット

各種マイクロデバイスの電気特性検査に使用する製品です。微細ばねを使用したプローブユニットです。

耐久性 **高信頼性** **環境保全**

高耐久性を有しており、高周波、鉛フリーにそれぞれ対応しています。

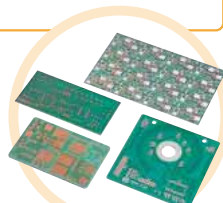


金属ベースプリント配線板

配線板として家電、OA機器、自動車、産業用機械装置に使用されています。

高放熱性

ベースとなる金属(アルミ・鉄)と、高い熱伝導性を持つ絶縁層からなるプリント配線板です。



情報セキュリティ関連製品

トラストグラム(光機能ホログラム)

偽造品・模造品対策の認証シールとして、製品やパッケージに貼り付け、ハンディビューにより真偽判定できます。

高信頼性

当社独自に開発したホログラム印刷を施した認証シールで、特殊素材ならびに製造技術が必要とすることから、複製は極めて困難なものです。



アルタテックス

洋服やバッグなどに付けたネームラベルに活用することで、ビューにより簡単に真偽判定ができる偽造品・模造品対策の特殊繊維ラベルです。

高信頼性

特殊繊維を用いる織込みタイプと特殊インクを用いる印刷タイプがあり、いずれも極めて複製が困難な製品で、ビューで簡単に真偽判定できます。



産業・生活分野

柔軟な発想で生まれた技術で、産業や生活の幅広い分野で新しいニーズに応えます。

産業機器・生活関連製品

金属ベローズ／ガスクッション

半導体製造装置真空機器用ベローズとプレス型押さえ用ガスクッションです。

耐久性 **環境保全**

真空機器用クリーンで高耐久なベローズとプレス用高耐久性ガスクッションです。



バランスユニット

大重量の蓋を軽い操作力で開閉できる装置で、半導体製造機器などに使われています。

メンテナンスフリー

ばね技術に応用したコンパクトで安全性と軽い操作力を確保した開閉ユニットです。



産業機器・生活関連製品

配管支持製品

発電所・化学プラントの配管や油空圧機器の支持および耐震装置として使用されています。

最適性 **安全性**

当社固有のばね技術と解析技術を駆使し、個別設計により使用箇所に最適な装置を提供します。



[工場]

[発電所・化学プラント]

立体駐車装置関連製品

立体駐車装置 (SD・UDパーク)

パレットを上下左右に移動させてクルマを入庫します。マンション、公共施設などの駐車場として利用されています。

省スペース **環境保全** **安全性**

クルマを立体的に格納することにより、工作物の範囲内で最大かつ最適な駐車スペースを確保します。



産業機器・生活関連製品

テンションランサ (鉄道架線用自動張力調整装置)

電車のパンタグラフに電気を供給する架線の張力を一定に保つ働きをします。

省スペース **メンテナンスフリー**

従来の方式 (滑車式) に比べ、設備のコンパクト化、メンテナンスフリーを実現しています。



当社は、地球環境問題に取り組むための基本となる、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しています。企業活動における改善目標の達成をめざし、日々活動を行っています。

環境ボランティアプラン

広範な地球環境問題に取り組むため、「地球環境行動指針」と「地球環境行動計画」を定め、1993年5月に「環境ボランティアプラン」として公表し、これに基づく「環境活動会社方針」を年度ごとに策定しています。

地球環境行動指針

当社の企業理念である「企業の成長をめざすと共に、豊かな社会の発展に貢献する」ことを実現するために、企業活動の中で地球環境との共生、調和を図ることを表明しています。

地球環境行動指針

- 1 製品の設計・生産・廃棄にいたる全ての段階を通して環境保全に積極的に取り組みます。**
 - (1) 資源の有効利用の可能性を追求し、省資源・リサイクルに徹底して取り組みます。
 - (2) 省エネルギーの目標を売上高エネルギー原単位で年率1%の向上におき、省エネルギーを推進します。
 - (3) 生産活動においてゼロエミッションをめざし、廃棄物削減と省資源活動を推進します。
- 2 地球環境問題に対する技術開発を推進し、環境保全に貢献します。**
- 3 ニッパツグループとして環境問題に取り組むと共に、社会・地域の環境保全に積極的に取り組みます。**

地球環境行動計画

「地球環境行動指針」に基づき、取り組むべき重点項目を抽出し、具体的な目標を設定し、その実現のための行動計画を定めています。

地球環境行動計画

- 1 推進体制**
 - (1) 組織体制
 - (2) 関連規程整備と管理
- 2 個別課題への取り組み**
 - (1) 工場立地における環境配慮 (2) 公害防止
 - (3) 省エネルギー及びCO₂削減 (4) 循環型社会への取り組み
 - (5) 特定フロン等の全廃
 - (6) 環境負荷を考慮した製品設計・技術開発
 - (7) 有害化学物質の削減 (8) 物流の合理化
 - (9) 環境マネジメントシステムの確実な運用とレベルアップ
 - (10) グリーン調達の推進
- 3 広報・社会活動等**
 - (1) 広報 (2) 情報提供 (3) 従業員教育
 - (4) 社会活動への取り組み
- 4 海外における活動**

環境活動会社方針

「地球環境行動計画」に基づいた具体的な目標を、段階的に実施していくために「環境活動会社方針」を年度ごとに策定しています。活動方針を具体的に示すことで、各工場の目標にも組み込まれ、より着実に取り組みを進めています。

2005年度の環境活動会社方針は右記の通りです。

環境活動会社方針

- 1 環境ボランティアプランの着実な推進**
 - (1) グループを含めた環境マネジメントシステムへの対応
 - (2) 地球温暖化防止活動の推進
 - (3) ゼロエミッションへの取り組み
 - (4) 環境関連法令への適合（コンプライアンス）
 - (5) 環境負荷を考慮した製品設計開発への取り組み
 - (6) 生産工程での環境負荷物質の削減
- 2 環境経営への取り組み**

環境・社会報告書の刊行（環境報告書第5号）
- 3 全従業員の環境意識高揚と地域社会貢献活動の推進**

環境保全推進体制

環境ボランティアプランを実行・推進するため、CSR推進委員会を中心とした組織体制で、PDCAサイクルに沿った継続的改善活動を行っています。

組織体制

2005年7月、全社のCSRを推進するためCSR推進委員会が発足しました。このCSR推進委員会には、社会貢献活動分科会と地球環境対策分科会が設けられ、従来の地球環境対策委員会は後者の分科会に改組されました。

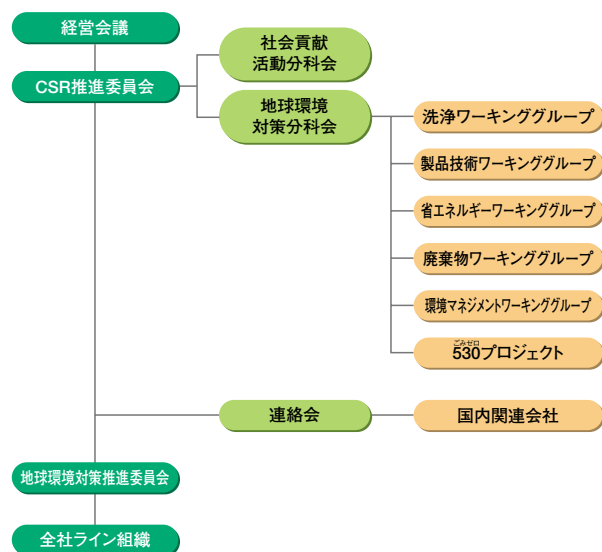
地球環境対策分科会では環境活動に関する内容を一元的に審議し、「地球環境行動計画」を実践していきます。

地球環境対策分科会には、重要課題を検討する6つの下部組織があります。また、国内関連会社とも連携するため連絡会を設けています。

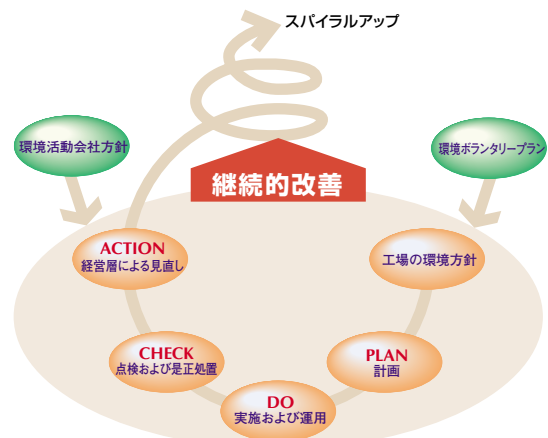
さらに工場長を中心とする地球環境対策推進委員会を設け、CSR推進委員会で決定された方針および目標を、各部門で確実に実施・展開しています。

このほか、循環型社会への取り組みとしてゼロエミッションをめざし2000年11月、530(ごみゼロ)プロジェクト(▶P18)を発足させました。その第1段階として横浜事業所においてゼロエミッションを達成し、現在は第2段階として全工場での取り組みを進めています。

■環境保全推進体制図



■PDCAサイクル概念図



PDCAサイクル

「環境ボランティアプラン」と「環境活動会社方針」の指標を基礎とし、各工場では独自で取り組むべき項目を抽出し、「工場の環境方針」および「環境マネジメントプログラム(環境改善計画)」を立てています。これらに基づき、各工場はPLAN・DO・CHECK・ACTIONを一周期とするPDCAサイクルに沿って、日常の環境改善活動を継続的に進めています。

VOICE ●●● 担当者の声 ●●●

環境保全への意識の高揚と持続の必要性を痛感しています



技術本部
安全環境部長
安藤 満さん

ニッパツは環境への取り組みを定着させるため、環境マネジメントシステムを導入し、1997年1月に、ばね業界として初めて、ばね横浜工場がISO14001の認証を取得しました。さらに、2001年4月までにすべての工場での認証取得を完了し、これを契機に、全員参加による環境保全活動がスタートしました。具体的な活動である「530(ごみゼロ)活動」などを進める中で、環境保全への意識の高揚と持続の必要性を痛感しています。

ISO14001への対応

当社は、環境保全に組織的に取り組むため、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。2001年4月までに全工場で認証取得を完了しており、現在は、国内関連会社の認証取得を積極的に支援しています。

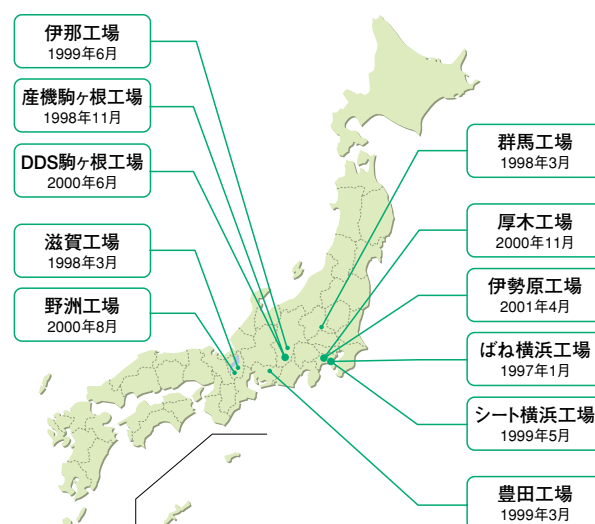
国内工場のISO14001認証取得状況

1996年に認証取得の準備を開始し、1997年1月に同業他社にさきがけて、ばね横浜工場でISO14001の認証を取得しました。これを皮切りに毎年3工場ずつ取得を進め、2001年4月に最後の工場が認証を取得して国内11工場、すべての生産拠点で認証取得を達成しました。



■ ISO14001登録証
(ばね横浜工場)

国内工場のISO14001認証取得年月



国内関連会社のISO14001認証取得状況

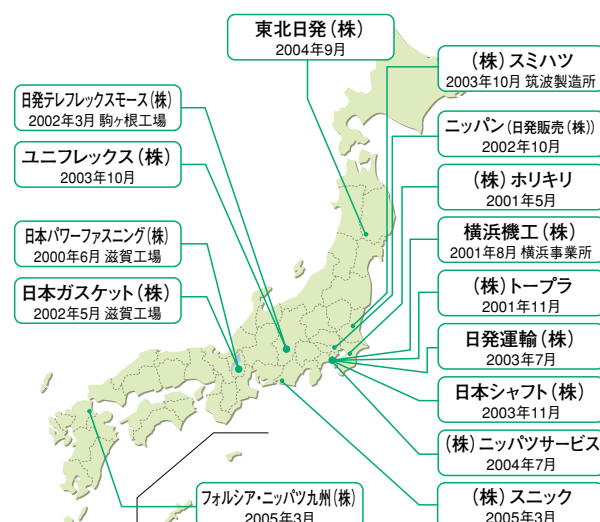
日発陸会で行われた「環境対策研修会※」での研修を活かし、ISO14001の認証取得に取り組む会社が増え始め、今までに国内関連会社24社のうち15社がISO14001の認証取得を達成しています。

さらに、現在4社が認証取得の準備を進めており、2006年度末までに国内関連会社の79%が認証取得を達成する予定です。

社会的要請に応えるため今後とも積極的な認証取得をめざし、また当社においても未取得の国内関連会社に対して積極的に支援していきます。

※国内関連会社のグループ活動実践の場、日発陸会の技術部に、1999年6月に発足。

国内関連会社のISO14001認証取得年月



VOICE

●●● 担当者の声 ●●●

公正で誠実に監査できるよう努めています



産機事業本部
化成品・電子部品部
(内部環境監査員)
本山 克二さん

ニッパツでは環境への取り組みが適正に行われているか内部監査を行い、改善指導などを行っています。監査員は、監査範囲を理解し、基準を適用できる能力が求められます。個人の力量に依存するところが大きいので、今後も、環境特有の知識・技能を身につけ、公正で誠実に監査できる訓練を積んでいきたいと思っています。またこれからの監査員は、さらなる専門性とサービスを含んだ監査が求められますので、人間と環境との関係について、さらに理解を深めたいと考えています。

環境監査

当社は、環境管理活動を環境マニュアルに沿って的確に運用し、実効のある環境パフォーマンスを達成していくため環境監査を実施しています。

ISO14001と環境監査

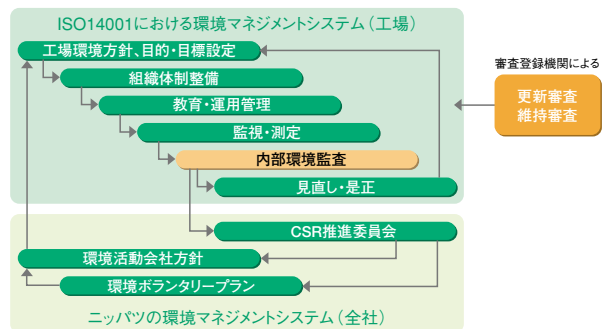
環境監査には、外部審査と内部環境監査とがあり、外部審査では環境マネジメントシステムがISO14001に従って適切に運用されているかを社外の審査登録機関がチェックします。内部環境監査では、環境マネジメントシステムの定着と維持に加え、環境関連の法令などの遵守、環境パフォーマンスの向上を図るとともに、改善課題の抽出と管理能力のレベルアップを図ることを目的として実施します。

内部環境監査は、各部門から監査員を選出し監査チームを編成して行います。

内部環境監査

1. 監査メンバーは専門教育を修了したものが担当します。主任監査員を本社安全環境部がつとめ、監査チームは当該事業部、他事業部の代表監査員の3名で編成します。2004年度は全11工場に対し下記の通り行い、システムの適切な運用を確認しています。
2. 監査結果は各工場の最高責任者である工場長に報告し、改善事項について見直し是正が図られます。また、全工場の監査結果はCSR推進委員会に報告し、

環境マネジメントシステムと環境監査



必要に応じて環境活動会社方針および環境ボランティアプランへ反映されます。

3. 各工場では自主的に独自の内部環境監査を実施する場合があります。



内部環境監査（産機駒ヶ根工場）

2004年度内部環境監査実施状況

時期	5月		7月		8月	9月		10月		11月	12月
工場名	野洲工場	伊那工場	産機駒ヶ根工場	豊田工場	DDS駒ヶ根工場	厚木工場	シート横浜工場	ばね横浜工場	伊勢原工場	滋賀工場	群馬工場

外部審査

1. 環境マネジメントシステムがISO14001の要求事項に適合し、運用されているかを外部の審査登録機関が審査します。
2. 外部審査は原則毎年行う維持審査と、3年に1度行う更新審査があります。
3. 2004年度は全11工場で外部審査が行われ、8つの工場で維持審査を、3つの工場で更新審査を受審し、各工場とも環境マネジメントシステムが適切に運用され、汚染の予防と継続的改善が図られているという判定を得ています。



外部審査
（DDS駒ヶ根工場）

環境教育と啓発活動

すべての従業員が、環境に対する知識と高い意識を持ちながら日常業務にあたる企業をめざし、さまざまな環境教育と啓発活動を行っています。

環境教育

環境保全活動を推進するためには、従業員一人ひとりの環境意識の向上が重要です。当社は、社内教育制度の充実を図り、各種環境教育、内部環境監査員の養成および各種公的な資格取得の促進を行い、啓発活動を展開しています。

環境教育は、従業員全員を対象とした階層別教育と、

環境に関わる業務担当者を対象とした専門教育を行っています。

階層別教育は人事教育体系の中に織り込み、昇進の機会ごとに繰り返し行っています。専門教育には、新たにその任に就いた時に行う新任時研修と繰り返し行うスキルアップ研修があります。

環境関連の資格取得者数

(2005年6月現在)

資格	分類	取得者数	資格	分類	取得者数
公害防止 管理者	大気 1種	27	環境マネジメント システム審査員	主任審査員	1
	その他	18		審査員補	1
	水質 1種	14	エネルギー 管理士	熱	12
	その他	48		電気	13
	騒音	51	作業環境 測定士	1種 粉塵	6
	振動	41		特化物	6
内部環境監査員	主任	0		金属	4
	ダイオキシン	2		有機	4
		236		2種	4
			環境計量士		1

単位：名

環境教育の内容

分類	対象者	教育内容
階層別 教育	新入社員研修	地球環境問題と 環境マネジメントシステム 行政・業界指針と ニッパツの取り組み
	新任係長研修	
	新任主任研修	
	新任基幹職研修	
専門教育	対象者	新任時研修 スキルアップ研修
	内部環境監査員	内部環境監査員養成研修 内部環境監査員研修
	部門環境管理者（工場長）	環境マネジメント基礎研修 工場長研修
	環境管理責任者（担当課長）	環境マネジメント構築研修 環境管理責任者研修



2004年版ISO14001改正の社内研修（2005年3月）

啓発活動

●地球環境フォーラム

環境月間である6月に地球環境フォーラムを毎年開催し、環境展や講演、環境保全活動の優れた事例発表などを行い、当社および関連会社従業員の意識向上と啓発を図っています。



地球環境フォーラムでのパネル展示

●サークル活動・提案制度

従業員の積極的な環境保全活動を促すため、サークル活動や提案で意識を高めるとともに、環境提案の年度優秀表彰を実施しています。



各職場で積極的に行われているサークル活動

●社内報、イントラネット

社内報とイントラネットに各事業所・工場の環境に関する取り組み状況を掲載し、活動の横断的な展開を図っています。



社内報「ニッパツai」

環境会計

当社は、環境保全活動に要したコストやその効果を環境会計として把握し、企業経営に活かしています。

2004年度の環境会計の分類と実績

当社では2000年度より環境会計を導入し、環境省の「環境会計ガイドライン」（2000年度版）に準拠し、下表9項目の分類でデータ集計を実施しています。

2004年度は環境会計を導入してから5年目となり、

投資効果についても把握を行っています。

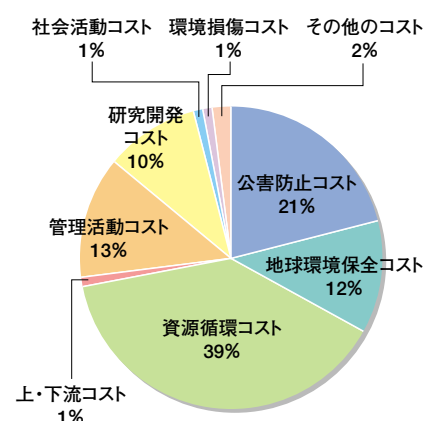
当社として一定の基準を設けて算出した結果、2004年度における環境会計は総額で約8億2,600万円となりました。その内訳は下表のようになっています。

2004年度環境保全コスト

コスト分類	主な内容	2003年度実績金額*	2004年度実績金額*
①公害防止コスト	大気・水質・騒音等の公害防止費用 排水処理設備の維持管理費用、その他	127.0	171.0
②地球環境保全コスト	省エネルギー対策費用、温暖化防止費用、その他	80.2	103.0
③資源循環コスト	廃棄物処理・ゼロエミッション対策費用、その他	433.9	327.0
④上・下流コスト	生産活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制する費用	12.2	12.4
⑤管理活動コスト	ISO14001維持・更新審査の費用 ISO14001事務局の人件費、その他	115.1	104.0
⑥研究開発コスト	環境負荷低減のための研究・開発費用、その他	78.5	81.2
⑦社会活動コスト	社会貢献活動のための費用、その他	6.9	8.4
⑧環境損傷コスト	環境損傷を修復するための費用、その他	0.9	6.2
⑨その他のコスト	上記に含まれない費用	8.0	12.5
合 計		862.7	825.7

※実績金額とは、「環境投資」および「環境保全」に関する金額を合計したものです。

単位：百万円／年



投資効果の分類と実績

投資効果の算定には、推定による算出は含まず、確実な根拠のある直接効果のみの集計としました。この直接効果において、エネルギーと廃棄物処理に関わる物質効果と経済効果の把握を行いました。

2004年度の実績は下表のようになり、エネルギー、CO₂、廃棄物の再資源化について改善効果がみられました。今後ともこれらを維持できるよう努力していきます。

2004年度投資効果実績

	物質効果 ^{※1}			経済効果 ^{※2}			評価
	2003年度実績	2004年度実績	効果	2003年度実績	2004年度実績	効果	
エネルギー使用原単位 (J/百万円) ^{※3}	8,330	7,576	△754	—	—	—	○
CO ₂ 原単位 (kgC/百万円) ^{※3}	0.174	0.159	△0.015	—	—	—	○
廃棄物埋立量 (トン/年)	443	38	△405	—	—	—	○
廃棄物再資源化量 (トン/年)	18,119	20,007	+1,888	—	—	—	○
エネルギー費用原単位 (円/千円) ^{※3}	—	—	—	21.4	18.6	△2.8	○
廃棄物処理費用原単位 (円/千円) ^{※3}	—	—	—	1.21	0.95	△0.26	○

※1 物質効果：環境汚染物質等の削減など ※2 経済効果：省エネ・廃棄物の削減など ※3 原単位：売上高に対する数値

事業活動における環境負荷を低減するため、省エネルギーや資源の循環、環境負荷物質の適正管理など、さまざまな取り組みを行っています。

省エネルギー、CO₂排出量の削減

生産活動においては、さまざまなエネルギーの利用や産業廃棄物などの環境負荷が生じます。私たちは一つひとつの問題に対して、環境への配慮に基づいた活動を行っています。

省エネルギー

当社は、地球環境問題が表面化する以前から省エネルギー活動に取り組んでいます。また、1993年には省エネルギー分科会（現省エネルギーワーキンググループ）を設置しました。

横浜事業所（本社、ばね横浜工場、シート横浜工場）は1991年に首都高速道路建設事業に伴い旧日本社および横浜工場の全面移転を行いました。この移転を契機に、現所在地における施設および設備で省エネルギー対策を強化し実施しています。

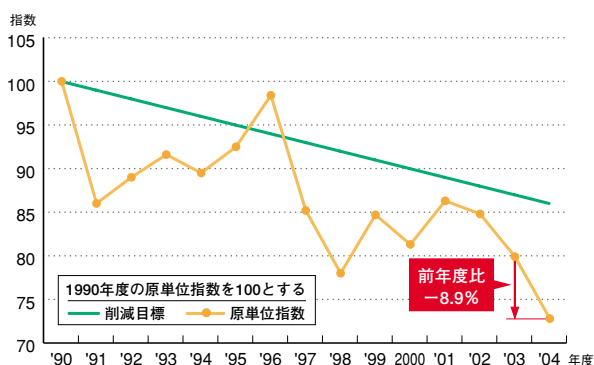
● 省エネルギー活動の目標と実績

1990年度を基準に、売上高エネルギー原単位、年率1%削減を目標としています。

2004年度の実績としては、原単位目標値*86.0に対して、原単位指数72.8と目標値をクリアしています。

※原単位目標値：1990年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値

■ 売上高エネルギー原単位の目標値と実績推移



CO₂排出量の削減

当社は、国内関連会社と連携して活動目標をかせ、CO₂排出量削減などの地球温暖化防止に取り組んでいます。

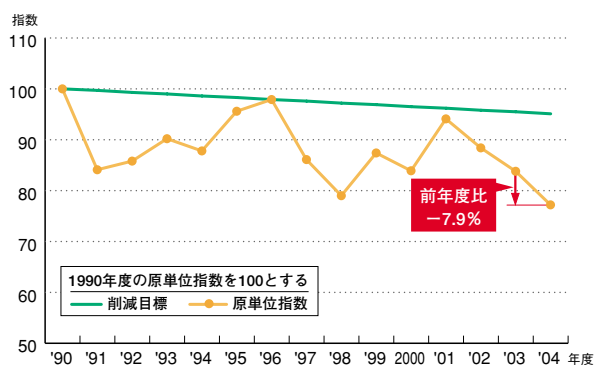
● CO₂排出量削減活動の目標と実績

1990年度を基準に、売上高CO₂排出量原単位を、2010年度までに7%削減することを目標としています。

2004年度の活動実績としては、原単位目標値*95.1に対して、原単位指数77.2と目標値をクリアしています。

※原単位目標値：1990年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値

■ CO₂排出量原単位指数の目標値と実績推移



循環型社会への取り組み

循環型社会への取り組みのために、廃棄物分科会（現廃棄物ワーキンググループ）および530（ごみゼロ）プロジェクトを設置し、廃棄物の削減、再使用、再資源化に取り組んでいます。

循環型社会への取り組み

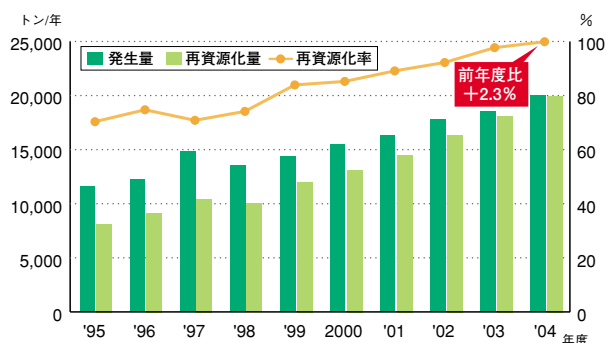
当社は、循環型社会への取り組みとして、ゼロエミッション達成*を目標に、廃棄物の埋立処分量削減を行っています。2002年度末には、これを横浜事業所で達成し、2003年度からは全社的な取り組みを進めています。

● 循環型社会への取り組み目標と実績

2005年度までの全社ゼロエミッション達成を目標としていますが、2004年度末で全社再資源化率は99.8%となり、目標を一年前倒しで達成しました。

※当社はゼロエミッションの定義を「再資源化率99%以上」としています。

■ 廃棄物再資源化率の実績推移



530プロジェクトの活動事例

● リサイクルセンター

伊勢原工場では、分別保管マップを作成して分別の徹底を行い、リサイクルセンターを整備して再資源化率の向上をめざします。



伊勢原工場のリサイクルセンター

● 計量管理システム

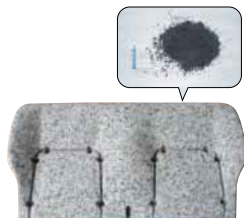
廃棄物に貼付されたバーコードを読み込み、種類と量を排出部署ごとに自動的に集計します。データは各部署の排出量の管理と減量化、そしてコスト意識の向上に役立っています。



バーコード読み込みによる集計

● チップウレタンのリサイクル

工場の生産過程で排出されるウレタン端材を、粉碎チップに加工します。このチップウレタンは、家具、寝具、カーペットなどのクッション材や緩衝材などに再生されています。



粉碎チップと再生クッション材

● エコシュレッダー

研究開発など機密の保持を必要とする書類は、出張シュレッダー業者と契約し、排出者立ち会いのもとで断裁し、製紙業者へ送ります。



シュレッダー業者による断裁作業

VOICE ●●● 担当者の声 ●●●

全社ゼロエミッション達成後も活動の維持・継続を図っています



株式会社ニッパツアムニティ*
ゼロエミッション推進チーム
武村 憲二さん

ニッパツは2000年に、「530（ごみゼロ）プロジェクト」を発足させ、横浜事業所でスタートしました。各職場で個人用のごみ箱を撤廃し、分別ステーションを設けて分別収集の指導を行うとともに、さまざまな啓発活動を通じて徹底を図りました。その後、再資源化率99%以上のゼロエミッションを目標として全社に展開してきました。全社で目標達成した現在も、定期的に分別パトロールを行うなど、循環型社会に向けた活動の維持・継続を図っています。

※ニッパツアムニティは、ニッパツの各事業所内の施設管理、緑化事業などを手がける子会社

環境負荷物質の管理と削減

関係法令や当社が加盟する組織の規程、自社基準等に従い、環境負荷物質を正しく管理するとともに、その削減に努めています。

PRTRの調査

当社は、1997年度から経済団体連合会のPRTR自主調査の取り組みに参加し、環境負荷物質の排出量、移動量の把握に努めています。

2001年6月からはPRTR法によるデータ報告を各事業所ごとに実施しています。さらに、当社は独自のPRTR調査の方法を取り入れ、全部門で使用されている

化学物質の年間取扱量を把握しています。これらの取り組みにより、2005年1月に「第1回PRTR大賞」奨励賞を受賞しました(▶P4)。

物質ごとの総量で年間取扱い1トン以上のものは下表の通りです。

2004年度環境負荷物質の排出量・移動量の調査結果

PRTR法 政令No.	物質名	指定化学物質 の種類	取扱い量	排出量						移動量	
				大気	水質	土壌	自工場で埋め立て			下水道	産廃 (委託)
							安定型	管理型	遮断型		
1	亜鉛の水溶性化合物	第一種	9.9	—	0.0	—	—	—	—	—	3.7
40	エチルベンゼン	第一種	15.4	7.0	—	—	—	—	—	—	0.0
61	ε-カプロラクタム	第一種	2.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—
63	キシレン	第一種	48.1	27.5	—	—	—	—	—	—	0.6
144	ジクロロベンタフルオロプロパン(HCFC225)	第一種	3.2	3.1	—	—	—	—	—	—	0.1
145	ジクロロメタン	第一種	12.8	12.8	—	—	—	—	—	—	0.0
207	銅水溶性塩	第一種	27.2	—	—	—	—	—	—	—	—
227	トルエン	第一種	63.3	39.9	—	—	—	—	—	—	4.9
232	ニッケル化合物	特定第一種	3.5	—	0.0	—	—	—	—	—	1.0
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	第一種	1.2	—	—	—	—	—	—	—	0.3
311	マンガン及びその化合物	第一種	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—
338	メチル-1,3-フェニレン=ジイソシアネート(TDI)	第一種	1,469.7	0.1	—	—	—	—	—	—	5.1
合計			1,657.6	90.6	0.0	—	—	—	—	—	15.7

●集計方法はPRTR法による(年間取扱い量が全社合計で1トン以上のものを記載)
●“—”はゼロ

単位:トン/年

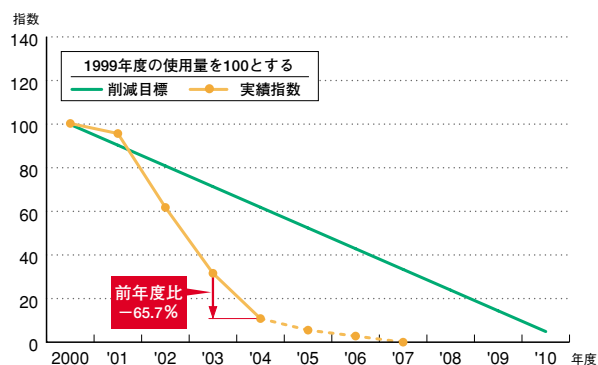
ジクロロメタンの削減

当社の加盟する業界団体である(社)日本自動車部品工業会の「環境自主行動計画」に従い、ジクロロメタンの使用量削減に取り組んでいます。2005年4月改訂の「第3次環境自主行動計画」では、ジクロロメタンの2000年度排出量の95%削減を2010年度までに達成することを目標としています。

●ジクロロメタン使用量削減の目標と実績

当社の使用量は2000年度に最大となりましたが、その後全社をあげて削減活動に取り組み、洗浄剤および接着剤の代替品への転換に成功して、2004年度までに大幅な削減を達成しました。さらに今後は業界の目標を前倒しし、2006年度末までに全廃することを目標に削減活動を進めていきます。

■ジクロロメタン削減の目標値と実績推移



国内関連会社の取り組み

当社はグループをあげて環境保全活動を進めています。国内関連会社24社は、それぞれ環境負荷低減などの活動を行っています。

省エネルギー、再資源化活動事例

- 適正なエアコン温度設定の徹底などによる消費電力の削減、再生紙利用など紙資源の有効活用、ごみの分別、グリーン購入など、環境保全に向けたさまざまな取り組みを行っています。[ニッパン]
- 2004年度から、ゼロエミッション活動を積極的に展開し、年度末までに再資源化率100%を達成しました。[日本シャフト]
- これまでの活動に加え、新たに廃プラスチック、プラスチックと金属との混合物などのリサイクルを開始しています。[ユニフレックス]
- 受入部品の袋を再使用し、ごみ袋の購入を止めました。また近隣企業と協力し、工場前の公道の美化活動を行っています。[フォルシア・ニッパツ九州=FNQ]
- ゼロエミッション活動を積極的に推進し、2005年度は、廃棄物の非資源化量を前年度比で半減することをめざしています。[スミハツ]



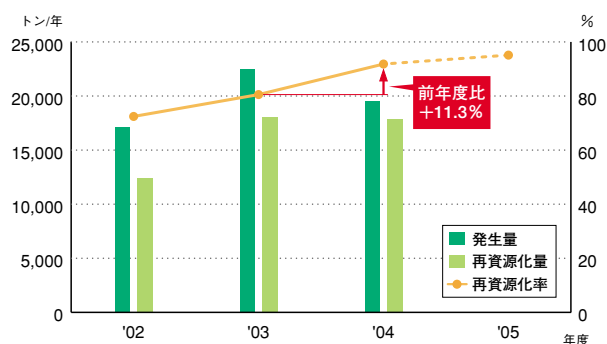
排水の処理の方法を従業員全員で学ぶ(FNQ)

循環型社会への取り組み

2004年度の国内関連会社の廃棄物発生量は年間19,512トンでした。その再資源化量は17,886トンで、91.7%の再資源化率となり、2003年度から11.3%向上しています。

国内関連会社では2005年度末までに再資源化率95%以上をめざし、ゼロエミッション活動を進めています。

国内関連会社の廃棄物の発生量と再資源化量推移



VOICE ●●● 担当者の声 ●●●

ニッパツグループ内の情報交換や好事例の横展開を図ります



横浜機工株式会社
環境対策推進室長
藤井 義郎 さん

ニッパツグループ各社では、品質・安全・社会貢献・危機管理など取り組むべき課題が増大しています。限られた経営資源の中で、各社独自の、そして特徴ある目標設定が重要ではないかと感じています。その一方で、たとえば環境保全では、ニッパツの活動に準じ、ISO14001の認証取得や「ニッパツグループ環境フォーラム」などへの参加を積極的に推進しています。今後もグループ内の情報交換や好事例の横展開を図り、各社の状況に応じた活動を展開していきます。

社会の一員として、当社の果たすべき役割を認識し、執行役員制度を導入したガバナンス体制により、コンプライアンスやリスクマネジメントの徹底に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス

当社は、経営の健全性を維持し、企業価値を継続的に高めていくため、経営上の組織体制や仕組みを整備し、必要な施策を実施していくことをすべての基本と考えています。

ガバナンス体制

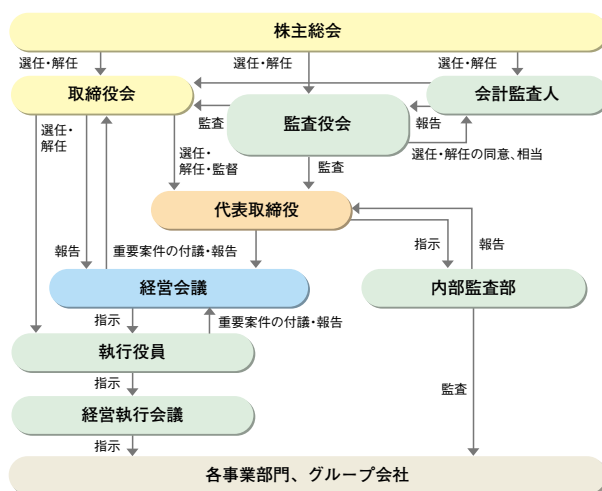
意思決定機関としては株主総会、取締役会がありますが、迅速な意思決定を行うため、2005年度より執行役員制を採用し、取締役会は従来の25名から8名に削減しました。

審議機関としては、経営会議、各委員会がありますが、特に経営会議は少数で意見交換できるように取締役および常勤監査役で構成しています。

監査機関としての監査役会ですが、現在4名の監査役のうち、従前から2名の社外監査役が就任しています。これも企業統治の観点からは統制の効く仕組みといえます。内部統制の仕組みについては内部監査部を設置し、業務の適正性と効率性の観点から内部監査体制の充実を図っています。

また、顧問弁護士からは、顧問契約に基づき必要に応じたアドバイスを受けており、監査法人からは監査契約に基づき決算時における監査を受けているほか、専門的な立場から適宜アドバイスを受けています。

■執行役員制度を導入したガバナンス体制図

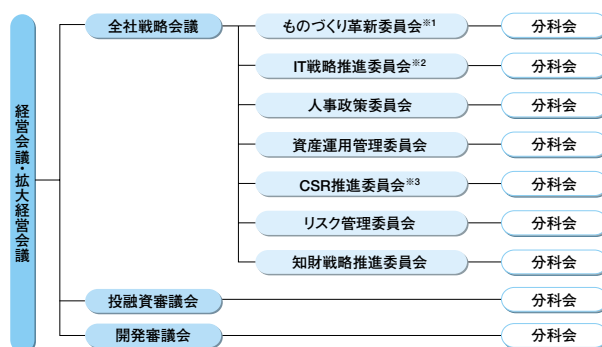


委員会活動の活性化

2005年度より、全社戦略会議の下部組織として本社機能に即した7カテゴリーの委員会を再構成し、経営資源の調達・配分・強化を主眼に、審議機関としての機能充実を図りました。

各委員会で討議された案件は機関決定を経た上で実行され、ニッパツの全社的な企業価値向上のための活動に活かされています。

■経営会議と各委員会の体系図

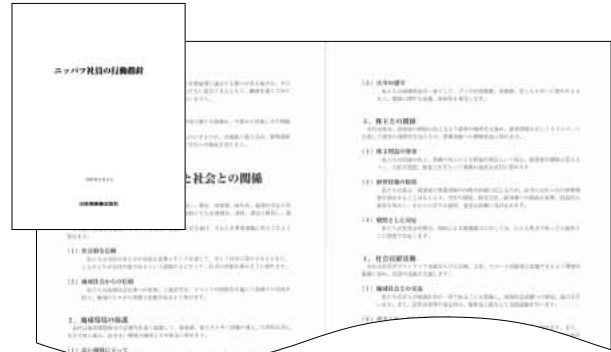


※1 生産革新委員会より改称 ※2 新設 ※3 地球環境対策委員会を含めて新設

コンプライアンス（企業倫理遵守）

コンプライアンス推進体制については、常に社会から高い信頼を得ることを目的として、コンプライアンス最高責任者・推進責任者・指導責任者を選任し、周知徹底を図っています。

教育制度については、「社員の行動指針」に基づき実施しています。2003年度から「コンプライアンス規程」を策定し、法令・社内規程および企業倫理遵守の全社徹底を行っています。



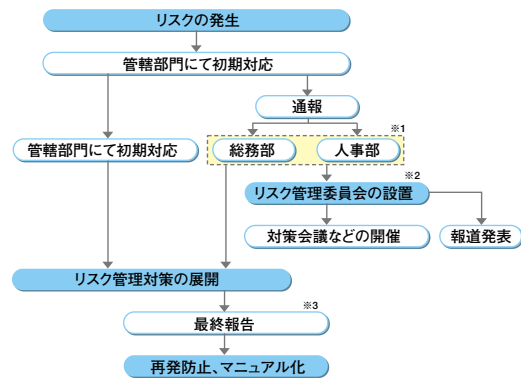
「ニッパツ社員の行動指針」

リスクマネジメント

法的リスク、財務リスク、情報漏えいリスク、災害リスクなど、当社を取り巻くさまざまなリスクに適確に対処するため、社内にリスク管理委員会を設けています。委員会では、災害発生などの緊急時への対応、組織・ルールづくりといった体制整備など、活発な活動を行っています。

近年は夏季の電力不足対策の実施や、情報セキュリティ強化のための「セキュリティマネジメントポリシー」や「プライバシーポリシー」の制定など、全社的なリスクマネジメント体制に向けた成果をあげています。

■リスク発生時のフロー・チャート



※1 総務部は、法務・財務・災害事故リスクを担当し、人事部は、労務リスク、海外における事件・事故を担当しています。

※2 事務局は、総務部と人事部のいずれかが行います。

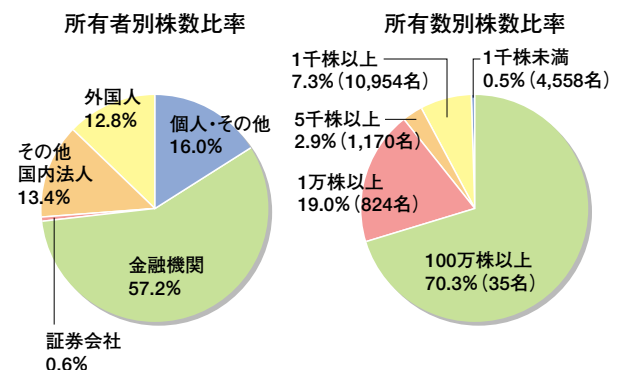
※3 最終報告は、①社長・副社長、②事業所長本部担当役員、③リスク管理委員会事務局に行われます。

株主への対応

当社の株主は、右グラフのような構成となっており、比較的安定しているといえます。

株主からのお問い合わせへの対応は、事業活動については広報部、株式の諸手続きについては総務部が担当しています。

■株式の分布状況（2005年3月末現在）



VOICE ●●●担当者声●●●

複数の相談員がプライバシーを守りながら対応します



人事部主任
橘 和子さん

当社では2002年に、コンプライアンスのための相談窓口を設置しました。人事部と総務部にそれぞれ複数の相談員を置き、相談者のプライバシーを守りながら、優しく真剣に対応しています。面談・電話のほか電子メールや社内便などさまざまな方法で従業員の相談に応じしています。また必要に応じて、関連部門にも協力してもらい、問題の解決を図っています。今後も情報提供や啓発活動を継続して行い、社会に貢献できる企業をめざします。

顧客、サプライヤー、従業員、地域社会など、すべてのステークホルダーの皆様と良好な関係を維持できるよう、さまざまな活動に取り組んでいます。

顧客／サプライヤー

ISO9001認証取得により、製品の品質保証に努めるとともに、自社のガイドラインに基づくグリーン調達を推進しています。また、すべての取引に関する情報のセキュリティ確保に取り組んでいます。

品質保証への取り組み

当社では、世界トップ水準の品質保持と、お客様満足度向上のための「品質方針」を定め、さまざまな品質保証の取り組みを行っています。

全事業所・工場においては、国際規格ISO9000シリーズを取得し、これに則った品質マネジメントシステムを運用しています。

品質方針

品質方針：世界トップ水準のニッパツグローバルTQMの実践によるお客様満足度の向上

スローガン：世界トップの品質・ダントツ工程のグローバル展開とQCD同時改善

重点方針：1. グローバルな人材育成によるニッパツグローバルTQM活動の実践
2. 攻めの品質改善による納入クレーム、工程内不良の目標挑戦
3. 品質改善効果算出法の実用化による品質改善投資の促進とQCD同時改善

■ニッパツのISO9001認証取得状況

本部・事業部	対象事業所	認証種類	取得年月	対象製品名
ばね生産本部	本部、横浜工場、滋賀工場	QS9000	1998年 8月 7日	懸架ばね全般
シート生産本部	本部、群馬工場、横浜工場、豊田工場	ISO/TS16949:2002	2000年11月21日	自動車用シートおよび内装品全般
精密ばね生産本部	本部、厚木工場、伊那工場	ISO9001:2000	1998年 6月19日	精密ばね全般
DDS事業本部	本部、駒ヶ根工場	ISO9001:2000	1997年 4月25日	HDD用サスペンション
産機事業本部	伊勢原工場	ISO9001:2000	2000年 5月26日	半導体製造検査装置部品
	駒ヶ根工場	ISO9001:2000	1997年 8月12日	発泡ポリウレタン製品および金属ベースプリント配線板
	野洲工場	ISO9001:2000	1999年 6月18日	機械式立体駐車装置
研究開発本部	光通信部品事業室	ISO9001:2000	2003年 2月28日	光通信部品
情報セキュリティ事業部	情報セキュリティ事業部	ISO9001:2000	2003年 3月25日	セキュリティ機器全般

情報のセキュリティ確保

当社およびグループ各社は、顧客やサプライヤーとの取引における情報の流出防止について、2003年12月にその基本となるべき「セキュリティマネジメントポリシー」を制定しました。この対策基準、実施手順の運用により情報の保護に努めています。

ポリシーの適用者は、当社および関連会社の役員と

従業員、外部委託業者の従業員（派遣社員、アルバイトを含む）としています。保有する情報資産は、機密度や内容に応じて、重要度を評価、分類し、適切な管理を行い、機密漏えい、破壊、改ざん、不正利用などを予防しています。

部品調達

当社は部品調達にあたって、「相互信頼に基づく長期的パートナーシップの構築」「公正・公平かつオープンな調達」「法規遵守と機密保持」という3つの基本方針を制定しています。

●グリーン調達

当社では、調達の基本方針に基づき「グリーン調達ガイドライン」を制定し、環境に配慮した企業から環境負荷

の少ない製品の調達に努めています。サプライヤーの皆様との連携によって、製品の設計・生産・廃棄にいたるすべての段階を通して環境保全活動を強化するとともに、環境負荷の削減と環境リスクの回避を図っています。

「グリーン調達ガイドライン」



従業員

当社は、有能な人材を「パートナー」として広く求めるとともに、労働安全衛生の確保に取り組んでいます。また、差別のない職場環境をめざし、障害者雇用も積極的に進めています。

人事と人材育成

有能な人材は、自ら成長しようとする「個人」と、それを育てようとする「職場」から育成されます。当社は、従業員一人ひとりが「プロフェッショナル」としての能力を発揮できるよう、これらをサポートする「人事制度」の運用に取り組んでいます。また採用にあたっては、キーワードの頭文字から「PARTNER」を期待する従業員像として、当社の「パートナー」となる人材を広く求めています。

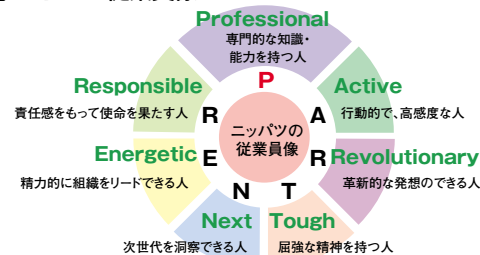
障害者雇用

当社は、差別のない職場環境をめざしています。障害者雇用を積極的に進めるため、2002年4月、障害者雇用の子会社「ニッパツ・ハーモニー」を横浜事業所内に設立しました。同社は2004年4月に厚木、2005年4月に駒ヶ根に営業所を開所しました。2005年6月現在、28人の従業員を雇用しています。

労働安全衛生

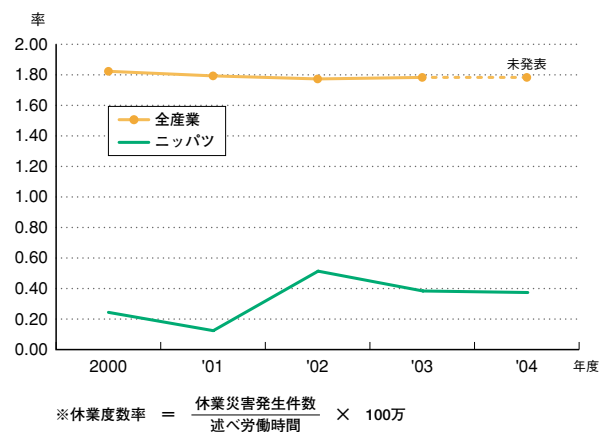
当社は、2000年度から労働安全衛生マネジメントシステムを導入し、2003年度から、これを全社展開しています。また、安全基本動作を習得する「安全道場」の取り組み、安全の基本ともいえる5S（整理・整頓・清潔・清掃・しつけ）への取り組み、危険有害要因を特定し、設備本質安全化につなげるリスクアセスメントへの取り組みなど、「危険ゼロ」を目標に労働災害の撲滅を推進しています。労働安全衛生の指標となる休業度数率は、全産業平均と比較し、大幅に下まわっています。今後は、労働安全衛生マネジメントシステムのPDCAサイクルを適切にまわし、スパイラルアップによる安全衛生管理レベルのさらなる向上を図っていきます。

求められる従業員像



西厚生労働副大臣がハーモニーを視察。当社の障害者雇用の取り組みに理解をいただいた

労働災害による休業度数率推移



VOICE ●●●担当者声●●●

ものづくりを通じて社会に貢献できる人材を育てます



当社は人事部が中心に行う従業員教育だけでなく、現場でもものづくりの基本である品質・安全・環境・標準作業などの教育を行っています。基本行動を体で覚える「道場」を工場内に設けたり、仕事の幅を広げるため従業員の資格取得を推進しています。教育にあたっては、基本行動の真の理解のため、一人ひとりの技量や性格に合わせた教育を心がけています。ものづくりを通じて社会に貢献できる人材を育てよう努めています。

シート横浜工場製造課 改善主担当(前工長)加藤 長寿さん(左) 工長水口 弘記さん(右)

地域社会

地域社会から世界へと共生の輪が広がるよう、当社は従業員全員による社会貢献活動を積極的に推進しています。事業所や工場では、周辺の清掃活動や地域行事への参加など、地域の方々に愛される企業となるよう努めています。

インターンシップと工場見学

● 高校生らの就業体験に協力

当社では、先生、生徒などのインターンシップによる就業体験を、積極的に受け入れています。

先生のインターンシップは、横浜市教育委員会の依頼によるもので、2004年7月21日から27日まで、並木第二小学校と港南台ひの養護学校の2人の先生が、シート横浜工場で就業体験に汗を流しました。

高校生は、2004年7月26日から28日の3日間、県立磯子工業高校の2年生3名と県立商工高校の3年生1名が、ばね横浜工場で自動車用の懸架ばねなどの製造を体験しました。また2004年10月4日から8日の5日間、横須賀工業高校の3年生3名を受け入れました。

このほか、伊勢原工場などでもインターンシップを受け入れています。



インターンシップで、熱心に仕事に打ち込む高校生



高校生にばね製造工程を指導

● 国内外からの工場見学受け入れ

当社の国内11工場は、当社所属団体や業界関係者、小・中学生から高校生、大学生など、連日多くの工場見学を受け入れています。また、技術習得のために海外から訪れる政府関係者や企業担当者の視察もあり、見学のテーマも、環境、品質管理、安全、生産性、障害者雇用など多岐にわたっています。



世界を舞台に活躍する企業に感動した様子の小学生(駒ヶ根工場)



お母さんたちに連れられてお父さんの職場見学に訪れた子どもたち(横浜事業所)



横浜事業所を訪れたポーランドの学生たち



東南アジアからは技術の習得のために来日する政府関係者や企業担当者が数多く見学に訪れる

大学との産学連携

2004年11月12日、当社は横浜国立大学ならびに横浜国立大学との、産学連携包括協定にそれぞれ調印しました。内容は、研究開発、技術交流、教育訓練、社会貢献など、幅広く多岐にわたっています。

当社は、従来から両大学と共同研究や社会人ドクター制度による人材育成などで協力関係があり、当社に在籍する両大学の卒業生が出身大学と交流するなど、個々にもつながりを持っていました。

今回の協定は、相互の連携がさらに深まることにより、ニッパツは研究開発機能のいっそうの強化を、両大学はそれぞれ民間企業のニーズ把握や研究成果の社会還元の拡大推進を目的としています。



調印後、固い握手。左から、横浜国立大学・飯田学長、当社・佐々木社長、横浜国立大学・小川学長



横浜国立大学で行われた産学交流会にパネルと開発品を出展

清掃活動と地域交流

当社では、国内の事業所・工場ごとに、行政との連携を図りながら、周辺地域や河川などの清掃活動を実施しています。また、各地域行事への積極的な参加や、近隣の方々を招いた夏祭り開催など、すべての事業所が「地域に根ざしたニッパツ」をめざした活動を行っています。

●「ごみ拾いウォーク」参加

2005年3月19日、横浜事業所の従業員と家族約40人が「ごみ拾いウォーク」に参加し、約5キロメートルを歩きました。ごみは思いのほか多くあり、参加者は予定を1時間以上もオーバーして目的地に到着しました。



「ごみ拾いウォーク」大人も子どもも一懸命にごみ拾い(横浜事業所)

●群馬県「尾島ねぶた祭り」参加

2004年8月14・15日、群馬県太田市(旧新田郡尾島町)で行われた「第26回尾島ねぶた祭り」には、群馬工場と北関東支店の若手従業員15名が参加しました。夜遅くまで山車を引き、祭りを盛り上げました。



「尾島ねぶた祭り」群馬工場と北関東支店の若手が参加。翌日早朝からの清掃活動にも汗を流した

●各地域に根ざした夏祭り

当社各工場は、近隣の方々を招いた夏祭りを開催し、従業員が出店する模擬店や、子ども向けのアトラクションなどで盛り上がります。「ニッパツの夏祭りに来ないと夏になった感じがしない」という声も聞かれるほど、地域に根ざしたイベントとなっています。また、夏祭りを利用したチャリティバザーなどの実施も増えています。



子どもたちも楽しみな当社の夏祭り(豊田工場)



チャリティバザーとオークションを開催。収益金は近くの社会福祉法人日本聴導犬協会に寄贈(伊那・駒ヶ根工場)

関連会社によるイベント活動

●中学生向け体験ゴルフ教室[ジー・エル・ジー]

ジー・エル・ジーは、2004年2月23・24日、同社経営のゴルフ練習場「リンクス新川崎」に、隣接する日吉中学校の3年生約100名を招き、所属プロが講師となって体験ゴルフ教室を開催しました。



1993年から始まり、同校の卒業記念行事としてすっかり定着している「体験ゴルフ教室」

●スプリングカップサッカー大会[スミハツ]

スミハツは、2004年3月12・13日、茨城県協和町サッカー場を中心に、小学生のサッカー大会「第11回スミハツスプリングカップ」を開催しました。県内を中心にした参加24チームが熱戦を繰り広げました。



スミハツサッカー部と近隣の下館KFCのエキシビジョンマッチなどが大会を盛り上げた「スミハツスプリングカップ」

VOICE ●●●担当者の声●●●

従業員個人のボランティア活動へ理解と支援が得られます



厚生労働大臣表彰を受ける宮沢さん(左)

ニッパツは、各事業所ごとに地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでいますが、ボランティア活動などを行う従業員個人に対しても、積極的な支援を行っています。私は「平成16年度勤労青少年福祉功労者」として、厚生労働大臣からの表彰状をいただきました。これも、会社の理解と支援があったからこそと感じています。

伊那工場 総務課主任 宮沢 伸一さん

ニッパツを囲む皆様の声

当社の事業活動は、多くのステークホルダーとの関わりから成り立っています。顧客、サプライヤー、公共団体、地域社会、それぞれの立場の皆様に、当社への率直なご意見や期待などを語っていただきました。

グローバルでの良きパートナーとして



トヨタ自動車株式会社
第1調達室シャシーグループ
グループ長
吉田 浩二さん

ニッパツは、トヨタの開発・生産におけるパートナーとして、懸架ばね、シートなどの部品を供給していただいています。

トヨタも2003年から「環境社会報告書」を発行しています。2005年度版では、環境側面への開発・設計での2004年度取り組み結果として、「2010年燃費基準（ガソリン乗用車）」達成車の生産台数比率87%との報告を行いました。この実現には軽量化への取り組みが必須でした。ニッパツはこれまで、高応力ばねや中空スタビライザなどを提案・供給し、車両の軽量化に協力していただきました。

私たちトヨタは、各国・各地域で、事業に根ざした活動から、芸術・文化・科学技術の発展、地球環境保全など、広く社会に貢献することが大切だと考えています。地域の人々と一体になって事業を展開し「愛される企業市民」となるよう努力していきます。ニッパツとは、引き続きグローバルでの良きパートナーとして、「地道に、愚直に、徹底的に」様々な問題に取り組み、ともに全てのステークホルダーから誇りに思っていただけの会社でありたいと思います。ともに頑張りましょう！

これからもWIN-WINの関係を



株式会社神戸製鋼所
鉄鋼部門線材条鋼営業部
線材・銑鉄室室長
西村 悟さん

ニッパツは、神戸製鋼所の鉄鋼製品を素材として、さまざまな自動車用部品を加工している最重要パートナーです。ばね、シートをはじめ、数多くの製品に当社の材料を使っていただいております。

その使用量は単独の部品メーカーとしてはケタ外れの、ひと月1万トン以上にもなります。さらに、共同で新素材の開発なども進めているほか、いくつかの関連会社にも材料を供給させていただくなど、グループ全体と深い関係にあります。

ニッパツは、ばねの分野で世界一の企業であり、その技術のコアに現在ではさまざまな分野へ事業を展開しています。一方、神戸製鋼所は文字通りの鉄鋼メーカーであり、阪神大震災など幾多の苦難を乗り越えた現在、得意とする特殊鋼線材やハイテン材に特化していこうとしています。これらの材料ではトップメーカーであると自負しており、今後もニッパツのグローバル展開に対応できるよう、供給体制を確立していく所存です。お互いにナンバーワンの部品メーカー、材料メーカーとして、これからもWIN-WINの関係が継続していくことを願っています。

温かい企業風土を継続してほしい



社会福祉法人電機神奈川福祉センター
専務理事・センター長
土師 修司さん

ニッパツは障害者雇用を積極的に推進し、2002年に障害者雇用の特例子会社「ニッパツ・ハーモニー」を横浜に設立し、さらに厚木と駒ヶ根の両工場内に相次いで営業所を設け、多くの障害者を雇用してきました。

電機神奈川福祉センターは、「ニッパツ・ハーモニー」の設立にあたり、設立時の支援のほか、雇用された障害者の就労・生活支援をしてきました。またニッパツの新入社員研修の一環として、福祉や障害者に対する理解を深めてもらうための体験学習などを受け入れてきました。

これまで日本の企業は人を育て活かしながら発展してきました。しかし最近は割り切った人事管理になりつつある企業が多くなっています。その中でニッパツは障害者雇用、新入社員教育、従業員の福利厚生など、就業環境を見ても温かみのある企業だと肌で感じています。ニッパツは「ばね」というコア技術からさまざまな分野に業容を拡大しています。これからますますの発展を期待するとともに、温かみのある企業風土をぜひ持ち続けてほしいと願っています。

地域を足場に世界への事業展開を期待



横浜市金沢区地域振興課
課長
飯島 良次さん

ニッパツは、1991年に横浜事業所が金沢区に移転した当初から区政を深く理解し、地域を重視したさまざまな活動を展開し、区が推進する「地域住民の連帯高揚」「住みやすいまちづくり」に協力していただきました。特に花火大会やロードレース&小学生駅伝大会には毎年協賛いただいています。

これらの事業は現在、横浜市を代表する一大イベントになっています。花火大会には区外、市外からも多くの人が訪れており、金沢区の魅力をアピールし、横浜の名を上げるのに貢献しています。

グローバルな優良企業は、地域に認められ、愛され、支えられて、初めて資格を有するものと考えています。ニッパツは横浜から世界へと躍進を続けており、横浜市民が誇る地域に根づいたグローバル企業といえましょう。金沢区では「住んでいて良かった。ずっと永く住み続けたい」と誰もが思える地域づくりを進めています。今後も引き続きご協力をお願いするとともに、ニッパツが金沢区を足場に、ますます世界に広がる事業展開をしていくことを期待しています。

	ニッパツ	国内関連会社	社会の動き
1967年			公害対策基本法施行
1970年			公害国会（公害対策諸法成立）
1971年	7月 環境管理課設立（自主測定・分析の体制確立）		環境庁設置
1985年			ウィーン条約（オゾン層保護）採択
1987年			モントリオール議定書（オゾン層保護）採択
1990年	1月 ニッパツ「企業理念」制定		
1991年	10月 「リサイクル連絡会」発足		リサイクル法施行（自動車指定）
1992年	9月 「地球環境対策委員会」発足 （3分科会発足：一般廃棄物、洗浄、発泡） 11月 第1回地球環境フォーラム開催		国連地球サミット開催（ブラジル） 地球温暖化防止条約採択
1993年	5月 「環境ボランティアプラン」制定 （3分科会追加：産業廃棄物、省エネルギー、製品技術）		環境基本法施行
1994年	12月 第2回地球環境フォーラム開催 12月 特定フロン等全廃達成（1年前倒し）		
1995年	1月 発泡分科会終了 環境マネジメント分科会発足 10月 横浜事業所がISO14001トライアルスタート 12月 第3回地球環境フォーラム開催		容器包装リサイクル法施行 （社）日本自動車部品工業会環境部会発足 第1回地球温暖化防止会議（COP1）
1996年	3月 横浜事業所がISO14001トライアル終了 4月 ばね横浜工場がISO14001取得準備スタート 10月 全工場でISO14001の取得方針を決定 12月 第4回地球環境フォーラム開催 12月 環境ボランティアプラン改定（第1次）		ISO14001制定 JISQ14001発行
1997年	1月 ばね横浜工場がISO14001認証取得（工場取得第1号） 9月 環境ボランティアプラン改定（第2次）		（社）日本自動車部品工業会環境委員会発足 第3回地球温暖化防止会議（COP3） 京都議定書採択
1998年	1月 地球環境問題講演会を開催 3月 滋賀工場がISO14001認証取得 3月 群馬工場がISO14001認証取得 7月 地球環境対策委員会の組織変更 11月 産機駒ヶ根工場がISO14001認証取得		地球温暖化対策推進法施行
1999年	1月 環境ボランティアプラン改定（第3次） 2月 第5回地球環境フォーラム開催 3月 豊田工場がISO14001認証取得 5月 シート横浜工場がISO14001認証取得 6月 伊那工場がISO14001認証取得	4月 日発陸会総務部会で廃棄物データ収集を開始 6月 環境対策研修会を開始（年4回開催）	改正省エネルギー法施行
2000年	6月 第6回地球環境フォーラム開催 6月 DDS駒ヶ根工場がISO14001認証取得 7月 環境ボランティアプラン改定（第4次） 8月 野洲工場がISO14001認証取得 11月 厚木工場がISO14001認証取得 11月 Y530（横浜事業所ごみゼロ）プロジェクト発足	6月 日本パワーファスニング（株）がISO14001認証取得 9月 環境対策研修会を継続開催（年2回開催）	ダイオキシン類対策特別措置法施行 PRTR法施行 循環型社会形成推進基本法施行 第6回地球温暖化防止会議（COP6）
2001年	2月 環境ボランティアプラン改定（第5次） 4月 伊勢原工場がISO14001認証取得（全工場完了） 6月 第7回地球環境フォーラム開催	5月 （株）ホリキリがISO14001認証取得 8月 横浜機工（株）がISO14001認証取得 11月 （株）トープラがISO14001認証取得	環境省設置 家電リサイクル法施行
2002年	1月 横浜事業所にリサイクルセンター完成 2月 環境ボランティアプラン改定（第6次） 5月 第8回地球環境フォーラム開催 6月 第10回横浜環境保全活動賞を受賞 12月 横浜事業所が平成14年度かながわ地球環境賞受賞	3月 日発テレフレックスモース（株）がISO14001認証取得 5月 日本ガスケツ（株）がISO14001認証取得 10月 日発販売（株）がISO14001認証取得 10月 日発陸会技術部会地球環境問題分科会を発足	土壤汚染対策法公布 自動車リサイクル法公布 日本が京都議定書を批准
2003年	2月 環境ボランティアプラン改定（第7次） 3月 横浜事業所でゼロエミッション達成 6月 第9回地球環境フォーラム開催	5月 日発陸会技術部会地球環境問題分科会を開催 7月 日発運輸（株）がISO14001認証取得 10月 （株）スミハツがISO14001認証取得 10月 ユニフレックス（株）がISO14001認証取得 11月 日本シャフト（株）がISO14001認証取得	自動車リサイクル法施行 土壤汚染対策法施行 改正省エネルギー法施行
2004年	2月 環境ボランティアプラン改定（第8次） 6月 第10回地球環境フォーラム開催 12月 厚木工場が平成16年度かながわ地球環境賞受賞	7月 ニッパツサービス（株）がISO14001認証取得 7月 日発陸会技術部会地球環境問題分科会を開催 9月 東北日発（株）がISO14001認証取得	改正大気汚染防止法公布
2005年	1月 横浜事業所がPRTR大賞で奨励賞受賞 2月 環境ボランティアプラン改定（第9次） 5月 第11回地球環境フォーラム開催	3月 フォルシア・ニッパツ九州（株）がISO14001認証取得 3月 （株）スニックがISO14001認証取得 7月 関連会社首脳会議を開催	改正自動車リサイクル法施行 京都議定書発効

本社・研究開発本部・ばね生産本部

本社・研究開発本部



コメント

本社および研究開発本部は、ばね・シート横浜工場とともに、7月1日から9月30日まで昼休みの時間を変更し、ピークとなる時間帯の電力使用の削減を図っています。また冷房温度の28℃厳守、ノーネクタイ・ノー上着の実施など、省エネルギー活動を積極的に推進しています。

所在地 横浜市金沢区
業務内容 企画・管理・研究開発
業務開始 1991年2月
従業員数 565人

2004年度および2005年度の取り組み

■廃棄物削減と再資源化

●ゼロエミッション3年計画（目標：廃棄物10%、費用30%低減）に対して、研究開発テーマの進捗に対応した取り組みを図ります。これにより、購入・使用・廃棄サイクルの見える管理を徹底し、継続した行動への結び付けを図ります。

■化学物質の管理

●研究開発部門では、化学物質管理システムの定着運用が行われています。環境への配慮において改善点などの対応・啓発教育により、部門員一体の環境意識の継続・スパイラルアップを図ります。

●大気（規制値：大気汚染防止法、横浜市生活環境保全条例）

物質	設備	規制値	実績
NOx	温水ボイラー	A	0.065
		B	0.075
	冷温水発生器	A	0.066
		B	0.046
ばいじん	温水ボイラー	A	0.05
		B	0.05
	冷温水発生器	A	0.05
		B	0.05

NOx単位：m³/h ばいじん単位：g/m³N

●水質：本館棟（規制値：横浜市下水道条例）

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5~9	7.9	7.3	7.50
油分	5	2.9	0.1	1.01
Fe	3	0.26	0.01	0.092
Zn	1	0.08	0.01	0.030
Ni	1	0.04	0.01	0.018
T-Cr	2	0.03	0.01	0.011
フッ素	8	1.93	0.01	0.298

単位：mg/l

●水質：研究開発棟（規制値：横浜市下水道条例）

項目	施設	規制値	実績		
			最大	最小	平均
pH	研究開発棟1	5~9	7.7	6.4	7.10
	研究開発棟2		7.8	6.5	7.06
油分	研究開発棟1	5	1.9	0.1	1.00
	研究開発棟2		3.4	0.1	1.13
Fe	研究開発棟1	3	0.97	0.06	0.321
	研究開発棟2		0.73	0.01	0.114
Zn	研究開発棟1	1	0.49	0.01	0.084
	研究開発棟2		0.1	0.01	0.032
Ni	研究開発棟1	1	0.04	0.01	0.018
	研究開発棟2		0.07	0.01	0.026
T-Cr	研究開発棟2	2	0.01	0.01	0.01
フッ素	研究開発棟2	8	7.72	0.16	1.685

単位：mg/l

ばね横浜工場



工場長コメント



工場長
赤松 英夫

従業員および関係者の環境への意識向上のもとに、省資源、リサイクルなどの身近な対応から、環境に対する予知保全に至るまでの取り組みの中で「地球にやさしいばねづくり」をめざします。

所在地 横浜市金沢区
生産品目 板ばね・コイルばね・ラジアスロッド
操業開始 1987年11月
従業員数 326人

考え方と方針

当工場は、「地球にやさしいばねづくり」を実現するために、環境保全、省エネルギー、廃棄物削減などの環境管理活動を工場運営の重要基盤の1つとして展開し、従業員の環境意識高揚を図ります。

2004年度および2005年度の取り組み

■廃棄物削減と再資源化

●工場環境推進委員会が教育・啓発活動を活発に展開し、各職場の環境個別改善により車手使用量を前年度比20.5%削減しました。
●日常的に発生する廃棄物は、2004年度通期実績で前年度比99.9%の再資源化率を達成しています。

■省エネルギー

●ばね生産本部棟の窓ガラスに熱線反射型のフィルムを貼り、エアコン用電力使用量を前年度比25.9%削減することができました。
●工場吸気装置の動力伝達用Vベルトを省エネルギータイプに変更し、15,300kWhの電力を削減することができました。

●大気（規制値：大気汚染防止法、横浜市生活環境保全条例）

物質	設備	規制値	実績
NOx	金属加熱炉	A	0.125
		B	0.108
		C	0.189
		D	0.151
		E	0.106
	金属戻し炉	A	0.163
		B	0.105
		C	0.089
		D	0.073
		E	0.051
ばいじん	金属加熱炉	A	0.1
		B	0.1
		C	0.1
		D	0.1
		E	0.1
	金属戻し炉	A	0.1
		B	0.1
		C	0.1
		D	0.1
		E	0.1

NOx単位：m³/h ばいじん単位：g/m³N

●水質（規制値：横浜市下水道条例）

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5~9	7.4	6.1	6.8
油分 鉱物油	5	3.1	0.1	1.21
油分 動植物油	30	4.7	0.3	2.53
Fe	3	0.16	0.02	0.08
Zn	1	0.21	0.01	0.059
Ni	1	0.61	0.01	0.264
Mn	1	0.21	0.01	0.019
フッ素	8	4.29	0.01	0.935
ぼう素	10	0.8	0.1	0.432

単位：mg/l

滋賀工場



工場長コメント



工場長
森 雅彦

滋賀工場スローガン「STPMで生き生き進化 滋賀工場」の実践考動として、全員参加できる環境保全活動を通して「地球環境にやさしいばねづくり」を積極的に推進します。

所在地 滋賀県甲賀市
生産品目 コイルばね・スタビライザ・トーションバー
操業開始 1973年11月
従業員数 251人

考え方と方針

スローガン「STPMで生き生き進化 滋賀工場」のもと、STPM活動の7本柱の1つである環境保全を中心に、全員参加の環境保全活動へと具現化し、環境にやさしいばねづくりを積極的に推進していきます。

2004年度および2005年度の取り組み

■省エネルギー

●設備別電力監視装置を設置し、2005年度からの具体的活動体制を整えました。
●照明器を省エネルギー型照明器（ハロゲン灯）に変更しました。
●中空スタビライザ端末加熱機の加熱方式を単相交流から三相直流インバーターに変更し、省エネルギーを図りました。

■省資源活動

●ゼロエミッション達成により、再資源化の質的向上を図るべく廃棄物委託先の変更を推進しました。
●廃ウエス・車手：使用量削減活動（STPM活動）と固形燃料（RPF）化。
●廃プラ：軟プラ・硬プラの分別と固形燃料化。
●コンクリート・レンガくず：流動化処理土（Nソイル）化。
●薬品びん：ガラスびん化で製品化（内外装材）。

●大気（規制値：大気汚染防止法）

物質	設備	規制値	実績
NOx	金属加熱炉	A	300
		B	300
		C	180
ばいじん	金属加熱炉	A	0.25
		B	0.25
		C	0.25

NOx単位：ppm ばいじん単位：g/m³N

●水質（規制値：甲賀市協定）

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	6~8	7.9	7.1	7.55
BOD	20	3	1	1.22
COD	20	10	1	2.78
SS	10	4	1	1.3
油分	3	2.6	0.3	1.26
総窒素	12※	8.9	2.56	5.362
総りん	1.2※	0.2	0.01	0.059

※滋賀県条例

単位：mg/l

シート生産本部

群馬工場



(旧尾島地区) (太田地区)
所在地 群馬県太田市 群馬県太田市
生産品目 自動車用シート 自動車内装品
操業開始 1986年12月 1969年7月
従業員数 367人 尾島地区に含む

考え方と方針

シート群馬工場は、地球環境への配慮を工場運営の重要基盤の1つと考え、当工場の事業活動および製品の環境に与える影響を低減し、地球環境を健全な状態で次の世代に引き継いでいくことを我々の責務ととらえ、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進し、地域環境との調和をめざします。

2004年度および2005年度の取り組み

■省エネルギー

- 省エネルギータイプのコンプレッサー導入およびインバーター制御設備の導入を実施しましたが、対前年度電力原単位は5%アップとなりました。
- 2005年度は、電力負荷設備の操作ルールを徹底し、電力使用量を把握していきます。予想電力原単位の管理制度を向上させます。
- LPGおよび水道では、設備からの蒸気漏れ対策、蒸気ドレーンの再利用を確実に実施し、使用量の削減を行います。

■廃棄物削減と再資源化

- 再資源化率は2004年度末目標の98%に対し、99.4%を達成しました。2005年度は、太田市合併に伴いごみ処理費およびウレタン原料の処理費用も増加することが決定しています。今後も再資源化率99%を維持するとともに、産廃指数、排出指数低減を含めて対応してまいります。

工場長コメント



工場長
菊地 一夫

活動の活性化には、合併した新生・太田市との連携をさらに深め、全体の実践活動を通じて意識の浸透を図り、社外でも行動できる人材の育成が企業の役目だと考えています。

●大気(法規制外設備のため自主規制値)(旧尾島地区)

物質	設備	規制値		実績
		A	B	
NOx	ボイラー	300	76.5	
		300	42.1	
		300	62.5	
ばいじん	ボイラー	0.2	0.025	
		0.2	0.017	
		0.2	0.054	

NOx単位: ppm ばいじん単位: g/m³

●水質(規制値:群馬県条例)(旧尾島地区)

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	6~8	7.4	6.1	6.84
BOD	10	9	1	1.96
SS	10	4	1	2.08
油分	3	2.5	0.5	1.56

単位: mg/l

●水質(規制値:群馬県条例)(太田地区)

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8~8.6	7.5	6.9	7.22
BOD	40	9	1	4.46
COD	40	12	1	8.31
SS	50	21	2	10.46
油分	5	3.1	0.4	1.32

単位: mg/l

シート横浜工場



所在地 横浜市金沢区
生産品目 自動車用シート・内装品
操業開始 1990年4月
従業員数 362人

考え方と方針

当工場は、環境にやさしい工場づくりをめざすとともに、地球の美しい自然を後世に残す強い意志の基、地球環境への配慮を工場運営の重要基盤の1つと考えています。すべての事業活動における環境保全の向上および社会への貢献を継続的に実施します。

2004年度および2005年度の取り組み

■廃棄物削減と再資源化

- 2004年度より準備を重ねてきた製品などの解体分別をさらに徹底し、リサイクル率の向上を行いました。また、全員参加のごみ分別活動を推進し再資源化率99%以上を維持しています。

■省エネルギー

- 老朽化更新計画に則り、コンプレッサー1台をインバータータイプのものに更新し電力使用量49,300kWh/年(1,665千円/年)の削減に成功することができました。
- 横浜事業所におけるコージェネレーションシステムの導入に伴い、工場内の電気式エアコンを排熱利用型蒸気吸収式冷凍機の空調システムに変更しました。

工場長コメント



工場長
増田 耕

金沢八景、富岡そして海の公園といった横浜の景勝地の環境を守るべく、地道な努力の継続により周辺地域の模範となる事業所をめざします。

●大気(規制値:大気汚染防止法、横浜市生活環境保全条例)

物質	設備	規制値		実績
		A	B	
NOx	ボイラー	0.067	0.063	
		0.067	0.06	
ばいじん	ボイラー	0.05	0.011	
		0.05	0.014	

NOx単位: m³/h ばいじん単位: g/m³

●水質(規制値:横浜市下水道条例)

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5~9	8.9	5.8	7.07
油分 鉱物油	5	3.3	0.2	1.12
油分 動植物油	30	9.7	1.6	4.99
Fe	3	0.33	0.03	0.09
Zn	1	0.15	0.01	0.030
Ni	1	0.05	0.01	0.02

単位: mg/l

豊田工場



所在地 愛知県豊田市
生産品目 自動車用シート・内装品
操業開始 1961年6月
従業員数 287名

考え方と方針

当工場では、「矢作川の豊かな清流に恵まれた地で地球環境に配慮した工場づくり」をめざし、すべての事業活動で環境保全の向上および社会への貢献を継続的に実施していきます。

2004年度および2005年度の取り組み

■騒音対策の実施

近隣住民の皆様から愛される工場をめざして当工場では、ウィークポイントである騒音の対策を継続的に実施しています。2004年度は、第5工場の昼夜稼働に伴う近隣対策として、防音トラックヤードを設置し、騒音の発生源対策を行いました。

■省エネルギー

2004年度は第4工場の変電設備の更新および、コンプレッサーのインバーター化により稼働時のロスエネルギーを削減しました。また、ウレタンモールドの休日温調を廃止したことで、非稼働時のロスエネルギーを削減することができました。

工場長コメント



工場長
梅村 太郎

2005年度も引き続き、騒音の発生源対策による未然防止の徹底と、地球温暖化防止に向けた積極的な省エネルギー活動を展開していきます。

●大気測定対象設備無し

●水質(規制値:下水道法)

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5~9	7.4	6.7	6.98
BOD	600	1	1	1.00
COD	600	14	4	6.25
SS	600	14	1	3.75
油分	5	3	0.1	1.24
Zn	5	0.25	0.03	0.125
Cu	3	0.03	0.01	0.012

単位: mg/l

精密ばね生産本部・DDS事業本部

厚木工場



所在地 神奈川県愛甲郡愛川町
生産品目 薄板ばね・精密プレス品
操業開始 1970年11月
従業員数 413人

考え方と方針

当工場は、薄板ばねを中心に自動車関連製品・情報機器関連製品などの高精度・高品質・高清潔度製品を開発し生産しています。環境保全活動をスパイラルアップさせながら、地域と密着した環境対応型工場をめざします。

相模川と中津川にはさまれた清らかなこの環境をいつまでも大切にするべく、従業員全員の意識向上を図り「地球にやさしい工場づくり」をめざします。

2004年度および2005年度の取り組み

■廃棄物削減と再資源化

- リサイクルセンターの設置および再資源化ルートの開拓により、2004年2月より再資源化率99%以上を達成しています。2005年度も引続き99%以上の維持、ならびに廃棄物のいっそうの削減に取り組みます。

■環境負荷物質の削減

- 洗浄液（AK225）を炭化水素系洗浄剤に変更し、2005年度中の代替フロン全廃をめざします。
- めっき関係の六価クロム削減・鉛フリー化など、グリーン調達を推進します。

工場長コメント



工場長
荒木 伸夫

地球環境保護を担う社会の一員として、環境保護の重要性を認識し、廃棄物削減、環境負荷物質削減に取り組み、「地球にやさしい工場づくり」を全員参加で推進します。

●大気（規制値：大気汚染防止法）

物質	設備	規制値	実績
NOx	温水ボイラー	250	87.9
ばいじん	温水ボイラー	0.3※	0.045

※神奈川県条例 NOx単位：ppm ばいじん単位：g/m³N

●水質（規制値：下水道法）

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5～9	7.4	6.7	7.02
BOD	600	47	4	13.9
SS	600	37	1	11.0
油分 鉱物油	5	5.7	1.2	3.40
油分 動植物油	30	12.1	0.2	2.01
Fe	10	0.79	0.03	0.371
総窒素	125	29.04	7.4	12.57
フッ素	8	0.54	0.01	0.1
ほう素	10	0.4	0.1	0.2

単位：mg/ℓ

伊那工場



所在地 (宮田地区) 長野県上伊那郡宮田町 (箕輪地区) 長野県伊那市
生産品目 線ばね・精密加工品 機能部品
操業開始 1943年12月 2004年8月
従業員数 410人 61人

考え方と方針

当工場は、自動車の主要部品であるバルブスプリングをはじめ各種線ばね、機能部品など、高品質・高機能で環境への負荷が少ない製品を開発・製造し提供しています。

今後よりいっそうの地球環境保護を推進するとともに、伊那谷の緑豊かな山々と青い空、そして澄んだ河川の流れを後世に継承するため、地域社会との共存を図りながら、地球環境にやさしい工場づくりを進めていきます。

2004年度および2005年度の取り組み

■省エネルギー

- 工場内変電所の変圧器を高効率型に変更しました。さらに、高圧ケーブルのサイズを変更することによりエネルギー損失の低減を図り省エネルギーを実施しました。

■地域貢献活動

- 天竜川環境ビュートンクおよび、新入社員による環境美化活動を実施しています。また、工場周辺の清掃活動など地域周辺の美化活動にも取り組んでいます。

工場長コメント



工場長
高橋 哲郎

伊那谷の自然豊かな地の中で、創業以来60年あまり、地域とともに発展してきました。永い歴史を大切にしながら、地域社会との共存を図り「真に地球にやさしい、地域にやさしい工場づくり」をめざします。

●大気（規制値：大気汚染防止法）

物質	設備	規制値		実績
		A	B	
NOx	暖房用ボイラー	250	250	55.4
		250	250	47.7
		250	250	67.1
ばいじん	暖房用ボイラー	0.3	0.3	0.043
		0.3	0.3	0.026
		0.3	0.3	0.039

NOx単位：ppm ばいじん単位：g/m³N

●水質（規制値：長野県条例）

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8～8.6	7.7	7.1	7.36
BOD	20	2	1	1.33
COD	20	2	1	1.167
SS	30	3.5	1	1.4
油分	5	1.9	0.1	1.15
Fe	10	0.49	0.01	0.117
Cu	3	0.03	0.01	0.013
総窒素	120	11.2	2.04	3.587
総りん	16	1.15	0.01	0.149

単位：mg/ℓ

DDS駒ヶ根工場



所在地 長野県駒ヶ根市
生産品目 HDD用サスペンション
操業開始 1983年11月
従業員数 420人

考え方と方針

当工場は、先端技術を駆使してハードディスク用サスペンションを生産しています。

自然環境に恵まれたこの地を健全な状態で後世に引き継ぐため、「環境にやさしい工場づくり」をめざし、事業活動を通して継続的な環境保全活動を推進し、省資源、省エネルギー、廃棄物削減およびリサイクルなどを実施するとともに、地域社会における環境保全に取り組みます。

2004年度および2005年度の取り組み

■廃棄物削減と再資源化

- リサイクルマニュアルを作成し教育を実施しました。廃棄物の分別が徹底されるようになったことから、通期実績で再資源化率99%以上を達成することができました。
- 2005年度は、廃プラスチック類のマテリアルリサイクル化を継続して実施します。

■省エネルギー

- 洗浄機の加熱方式をヒーターから蒸気に変更、焼戻し炉のヒーターON-OFF自動制御化、および夏期の散水によるクリーンルーム空調屋外機への負荷低減を実施しました。

工場長コメント



工場長
梅林 彰

全員参加による自然環境保護活動を展開しており、生産活動のみならず地域貢献活動の充実を図り、地域の皆さんに親近感を持ってもらえる工場づくりをめざしています。

●大気測定対象設備無し

●水質（規制値：長野県条例）

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8～8.6	7.6	7.0	7.34
BOD	20	7	1	2.1
COD	20	8	1	3.3
SS	30	4	1	1.5
油分	5	1.7	0.5	1.10
Cu	3	0.07	0.01	0.030

単位：mg/ℓ

産機事業本部

伊勢原工場（接合・セラミック部／特品部）



所在地 神奈川県伊勢原市
生産品目 ろう付品・配管支持装置・特殊ばね
操業開始 1993年3月
従業員数 138人

考え方と方針

当工場は、多くの部門が集合し多岐にわたる事業を展開しています。そのすべての事業活動の中で、環境保全活動に取り組み、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、環境負荷物質の低減など、継続的に改善を実施していきます。

2004年度および2005年度の取り組み

■産業廃棄物削減と再資源化

- リサイクルセンターを設置しました。分別保管マップの作成・運用により、分別・保管の徹底を図り、再資源化率99.9%を達成することができました。
- 部門別の廃棄物の量的把握を行い、各部署ごとの排出量の削減および産廃費用の低減に取り組みます。

■省エネルギー

- 24時間稼働のコンプレッサーおよびろう付炉の冷却水ポンプの運転効率化、また空調機の適正稼働による、電力使用量の削減に取り組みます。

部長コメント



接合・セラミック部長
茅本 隆司

古くから信仰されている大山の麓、縄文時代の遺跡もある小高い丘に建つ工場です。環境を守るのはもちろん、地域に根ざした好かれる工場をめざします。

●大気（規制値：大気汚染防止法）

物質	設備	規制値	実績
NOx	冷温水ボイラー	A 150	29.4
		B 150	47.5
ばいじん	冷温水ボイラー	A 0.1※	0.014
		B 0.1※	0.021

※神奈川県条例

NOx単位：ppm ばいじん単位：g/m³N●水質（規制値：排水量50m³/h未満のため自主管理）

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8～8.6	7.8	6.7	7.21
BOD	130	13	2	5.8
COD	130	19	9	13.2
SS	160	8	1	3.0
油分	5	2.3	0.7	1.39
Fe	3	0.37	0.01	0.145
Zn	1	0.13	0.04	0.079

単位：mg/ℓ

産機駒ヶ根工場（化成品・電子部品部）



所在地 長野県駒ヶ根市
生産品目 特殊発泡ポリウレタン製品
金属ベースプリント配線基板
操業開始 1981年12月
従業員数 122人

考え方と方針

当工場は、2つのアルプスが映える緑豊かな景勝地にあり、機能性ウレタン製品およびプリント配線板の生産を行っています。ニッパツの行動指針、行動計画を基に、地域に根ざした循環型社会への取り組みを全従業員で推進します。

2004年度および2005年度の取り組み

■第2工場を含めた拡張認証監査に合格（ISO14001）

■環境負荷物質の削減と再資源化

- ウレタン発泡機洗浄剤の塩化メチレンを他の洗浄剤に変更し、2006年3月までに全廃に取り組みます。
- 特別管理産業廃棄物の塩化銅廃液を再資源化として売却処理しました。
- 第2工場の廃棄物分別・保管の整備を実施しました。

部長コメント



化成品・電子部品部長
川口 博正

2つのアルプスが映える緑豊かな景勝地のもとで、当社の「地球環境行動指針」と「地球環境行動計画」をもとに、地域に根ざした環境型社会への取り組みを全従業員で推進していきます。

●大気（規制値：大気汚染防止法）

物質	設備	規制値	実績
NOx	温水ボイラー	A 180	69.5
		B 180	47.7
	多段プレスボイラー	180	68.0
	暖房用ボイラー	A 180	103.3
		B 180	43
ばいじん	温水ボイラー	A 0.3	0.017
		B 0.3	0.023
	多段プレスボイラー	0.3	0.038
	暖房用ボイラー	A 0.3	0.061
		B 0.3	0.021

NOx単位：ppm ばいじん単位：g/m³N

●水質（規制値：長野県条例）第一生産棟

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8～8.6	7.9	7.4	7.65
BOD	20	4	1	1.3
COD	20	3	1	1.3
SS	30	2	1	1.1
油分	5	1.9	0.4	1.13
Fe	10	0.09	0	0.020
総りん	16	0.05	0	0.013

単位：mg/ℓ

●水質（規制値：長野県条例）第二生産棟

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5.8～8.6	7.4	6.8	7.07
BOD	20	19	1	6.1
COD	20	17	1	8.0
SS	30	29	1	2.6
油分	5	3.5	0.1	1.23
Fe	10	0.42	0.1	0.232
Cu	3	0.23	0.01	0.059
総りん	16	0.05	0.05	0.05

単位：mg/ℓ

野洲工場（パーキング部）



所在地 滋賀県野洲市
生産品目 立体駐車装置
操業開始 1996年10月
従業員数 59人

考え方と方針

当工場は、環境への負荷軽減をスローガンに機械式駐車装置などの高品質・高機能製品を開発、製造しています。今後もよりいっそうの地球環境保護を推進するとともに琵琶湖を囲む緑豊かな山々、青い空と河川の流れなどのすばらしい環境を後世に継承するため、環境保全の継続的改善に取り組んでいきます。

2004年度および2005年度の取り組み

■廃棄物削減と再資源化

- 燃やすごみの分別強化および埋め立て廃プラ・汚泥類のサーマルリサイクル化を図り、再資源化率99%以上を達成しました。

■省エネルギー

- 工場内エア配管のリークチェックによりコンプレッサー稼働負荷削減に取り組んでいます。

部長コメント



パーキング部長
大塚 敏文

湖国独特の豊かな自然のさまざまな変化を、自然界が発する警告と受けとめ、環境は壊れやすく復元し難いことを認識し、従業員全員で地球にやさしい工場づくりをめざします。

●大気（規制値：大気汚染防止法）

物質	設備	規制値	実績
NOx	ボイラー	150	44.7
	乾燥炉	230	23.8
ばいじん	ボイラー	0.1	0.057
	乾燥炉	0.2	0.048

NOx単位：ppm ばいじん単位：g/m³N

●水質（規制値：下水道法）

項目	規制値	実績		
		最大	最小	平均
pH	5～9	7.8	6.6	7.27
BOD	600	3	1	2.1
SS	600	8	1	2.7
油分	5	4.2	0.9	1.89
Ni	1	0.33	0.03	0.178
総窒素	60	23.83	12.01	15.902
総りん	10	0.43	0.09	0.171

単位：mg/ℓ

■ 国内関連会社（2005年3月末現在）

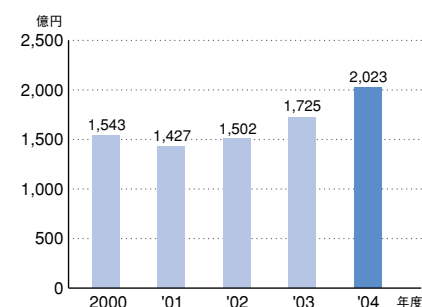
国内関連会社	本社所在地	連絡先	主要業務
ニッパン(日発販売株式会社)	〒135-0051 東京都江東区枝川12-13-1	TEL.(03)5690-3001 FAX.(03)5690-3025	自動車部品・用品、自動車用ばね、精密自動車部品、モジュール化部品、各種産業部品・精密測定機器、光通信関連部品、情報通信関連機器の販売および輸出入
日発運輸株式会社	〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10	TEL.(045)788-0811 FAX.(045)701-5521	貨物運送取扱事業、倉庫業および納入に関する一切のサービス業務、機械設備の輸送・据付業
株式会社ニッパツサービス	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-32-1 ニッパツ西口ビル	TEL.(045)316-7700 FAX.(045)322-2271	石油・石油製品・自動車部品・用品の販売、化学製品・一般高圧ガスなどの販売および付帯設備工事、損害・生命保険代理店業、不動産業、酒類小売業
株式会社ニッパツアメニティ	〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10	TEL.(045)786-7555 FAX.(045)786-7577	ビル総合管理、警備業、緑化事業、印刷、人材派遣業、情報システム開発および運営管理
株式会社ジー・エル・ジー	〒212-0057 川崎市幸区北加瀬2-1-12	TEL.(044)599-2471 FAX.(044)588-4814	ゴルフ練習場運営
横浜機工株式会社	〒236-8647 横浜市金沢区福浦2-11-1	TEL.(045)781-2701 FAX.(045)781-2228	スタビライザ、照明器具、真空蒸着品の製造販売
株式会社スミハツ	〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-5-5 MY岩本町ビル4F	TEL.(03)3864-6331 FAX.(03)3864-6130	板ばね、コイルばね、分岐器、クリップ、合成まくらぎ、バランサの製造販売
株式会社ホリキリ	〒276-0022 千葉県八千代市上高野1827-4	TEL.(047)484-1111 FAX.(047)484-1804	板ばね、U字形ばね、スタビライザ、スタビリンカーの製造販売
東北日発株式会社	〒024-0334 岩手県北上市和賀町藤根18-25-2	TEL.(0197)73-5221 FAX.(0197)73-7143	コイルばね、精密ばね、異形線ばね、特殊ばね、自動車用シート部品の製造販売
株式会社アイテス	〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町2258	TEL.(045)813-4777 FAX.(045)812-0840	自動車用シート、内装品の製造販売
フォルシア・ニッパツ株式会社	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-32-1 ニッパツ西口ビル9F	TEL.(045)324-4631 FAX.(045)324-4632	自動車用シートの開発および販売
フォルシア・ニッパツ九州株式会社	〒800-0321 福岡県京都市都井町新浜町9-9	TEL.(093)435-3300 FAX.(093)435-2900	自動車用シートの製造販売
株式会社シンダイ	〒444-1301 愛知県高浜市新田町3-3-6	TEL.(0566)52-1221 FAX.(0566)52-1225	自動車および家具用シートスプリング、スチールフレーム、トランクリッドトーションバー、サンバイザーワイヤー、トノカバーの製造販売
株式会社スニック	〒438-0211 静岡県磐田市東平松1403	TEL.(0538)66-5511 FAX.(0538)66-5510	二輪車および自動車用シートの製造販売
ユニフレックス株式会社	〒399-4501 長野県伊那市西貫輪原2445-5	TEL.(0265)76-3280 FAX.(0265)76-3288	コントロールケーブルおよび関連部品の製造販売
アヤセ精密株式会社	〒252-1125 神奈川県綾瀬市吉岡東1-13-6	TEL.(0467)76-7631 FAX.(0467)76-6472	精密薄板ばねの製造販売
日発テレフレックスモース株式会社	〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-21-10	TEL.(045)475-8901 FAX.(045)475-8907	マリン、インダストリアル用メカニカルリモートコントロールボックス・コントロールケーブル、電子式リモートコントロールシステム、ステアリングシステム(メカニカル式、油圧式)、フットペダル(メカニカル式、電子式)の製造販売
株式会社ニッパツパーキングシステムズ	〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目2-1-49	TEL.(0463)91-8620 FAX.(0463)91-8646	機械式駐車装置全般の計画・販売・施工・メンテナンス・リニューアル、駐車場付帯設備の販売
日本シャフト株式会社	〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-1-15	TEL.(045)782-2561 FAX.(045)783-3559	ゴルフシャフト、金属バット、ゴルフクラブなど運動用具、パイプ製品、カーボン複合製品の製造販売
株式会社トープラ	〒257-0031 神奈川県秦野市曾屋201	TEL.(0463)82-2711 FAX.(0463)83-4877	十字穴付ねじ、ボルトおよび一般ファスナーの製造販売
日本パワーファスニング株式会社	〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-90 梅田スカイビルガーデンファイブ4F	TEL.(06)6442-0951 FAX.(06)6451-9951	工業用ファスナー(ばね、ねじなど)の製造販売、締結工具、機械および工業用びょう打機の製造販売
日本ガasket株式会社	〒578-0901 大阪府東大阪市加納2-1-1	TEL.(0729)62-4024 FAX.(0729)64-4771	エンジン用ガasket製品および素材、ヒートインシュレーター、消臭等環境改善製品、コーティング材料の製造販売
日発精密工業株式会社	〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目2-1-49	TEL.(0463)94-5235 FAX.(0463)93-5104	ねじ工具、自動車部品、情報処理機器部品、産業用精密部品の製造販売
株式会社ニッパツ・ハーモニー	〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10	TEL.(045)786-7571 FAX.(045)786-7501	建物内外の清掃業務

■ 会社概要 (2005年3月末現在)

商号	日本発条株式会社
設立	1939年(昭和14年)9月8日
資本金	170億957万円
従業員数	3,781名
売上高	2,023億円(2004年度、単独)
本社	〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-10
事業部	ばね生産本部、シート生産本部、精密ばね生産本部、 DDS事業本部、産機事業本部、情報セキュリティ事業部
工場	横浜工場(ばね/シート)、滋賀工場、群馬工場、 豊田工場、厚木工場、伊那工場、 駒ヶ根工場(DDS/産機)、伊勢原工場、野洲工場
分館・分室	東京分館、横浜分室
支店・営業所	北関東支店、浜松支店、名古屋支店、大阪支店、 広島支店、福岡営業所
海外事務所	スペイン事務所
上場	東証第一部(コード5991)
関連会社	国内24社、海外26社

財務データ

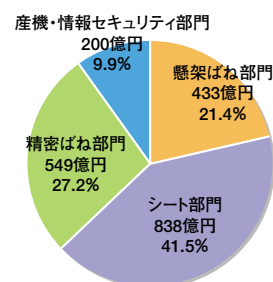
■ 売上高の推移



■ 事業分野と主な製品

自動車分野	・板ばね、コイルばね、スタビライザなどの懸架ばね ・シート/内・外装品 ・線ばね/薄板ばね/精密プレス品 ・機能製品 ・アキュムレータ/金属ベローズ ・特殊発泡ポリウレタン製品ほか
情報通信分野	・HDD用サスペンション・メカ製品 ・マイクロコンタクタ ・線ばね/薄板ばね/精密プレス品 ・精密加工品 ・機能製品 ・ろう付品 ・金属ベースプリント配線板 ・特殊発泡ポリウレタン製品
産業・生活分野	・情報セキュリティシステムほか ・立体駐車装置 ・配管支持装置 ・特殊ばね/金属ベローズ ・特殊発泡ポリウレタン製品

■ 部門別売上比率



編集後記

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

2000年より毎年発行しております「環境報告書」を、今年度より「環境・社会報告書」と改め、編集にあたり、当社のCSR活動を含む社会性情報の拡充に努めました。内容的にはまだまだ不十分な点も多く、今後読者の皆様のご意見・ご要望をいただきながら、報告内容の充実を図っていきたいと考えております。

つきましては、添付のアンケートにご協力いただき、皆様の率直な感想をお聞かせいただければ幸いです。

2005年9月

<問い合わせ先>

日本発条株式会社
企画本部広報部
〒236-0004
横浜市金沢区福浦3-10
TEL: 045-786-7513
FAX: 045-786-7598
ホームページ:
<http://www.nhkspg.co.jp/>
Email: b2200@nhkspg.co.jp

読者アンケート

FAX:045-786-7598 日本発条株式会社 企画本部広報部 宛

(1) この報告書を、どのような立場で読まれましたか。(複数可)

- ☐ ニッパツの工場や事務所がある地域に住んでいる ☐ ニッパツと取引関係にある ☐ 学生
☐ 行政関係 ☐ 環境団体関係 ☐ 報道関係 ☐ 株主・投資家 ☐ ニッパツの従業員およびその家族
☐ その他(具体的に

(2) この報告書についてどのように感じになりましたか。

- ☐ わかりやすい ☐ 普通 ☐ わかりにくい

その理由を具体的にお書きください。

(3) 特に印象に残ったこと、興味を持たれた項目は何ですか。(複数可)

- ☐ トップコミットメント ☐ ニッパツの経営ビジョン ☐ 2004年度環境・社会性活動ハイライト

事業活動と環境・社会との関わり

- ☐ 事業活動とライフサイクルフロー

製品開発と技術開発

- ☐ 自動車分野 ☐ 情報通信分野 ☐ 産業・生活分野

環境マネジメントシステム

- ☐ 環境ボランティアプラン ☐ 環境保全推進体制 ☐ ISO14001への対応 ☐ 環境監査
☐ 環境教育と啓発活動 ☐ 環境会計

環境パフォーマンス

- ☐ 省エネルギー、CO₂排出量の削減 ☐ 循環型社会への取り組み ☐ 環境負荷物質の管理と削減
☐ 国内関連会社の取り組み

企業としての社会的責任

- ☐ コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーへの姿勢

- ☐ 顧客／サプライヤー ☐ 従業員 ☐ 地域社会 ☐ ニッパツを囲む皆様の声

データ集

- ☐ 事業活動の歩み ☐ 工場別サイトデータ ☐ 国内関連会社概要 ☐ ニッパツ会社概要

(4) 「ニッパツの環境保全活動」について、どのように感じになりましたか。

- ☐ 評価できる ☐ 普通 ☐ 評価できない ☐ その他(具体的に

その理由を具体的にお書きください。

(5) 「ニッパツの社会的活動」について、どのように感じになりましたか。

- ☐ 評価できる ☐ 普通 ☐ 評価できない ☐ その他(具体的に

その理由を具体的にお書きください。

(6) この報告書の内容について、足りない点や改善した方がよい点がありましたらお書きください。

(7) その他、ご意見・ご感想などをお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。お差し支えなければ、下記欄にもご記入ください。

ふりがな
お名前

男・女 年齢 歳

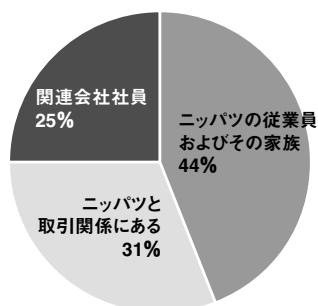
ご住所 〒

ご職業・勤務先

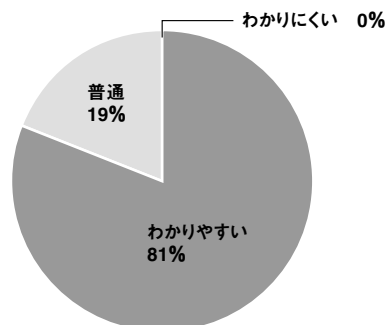
部署・役職名

「環境報告書2004」読者アンケート集計結果

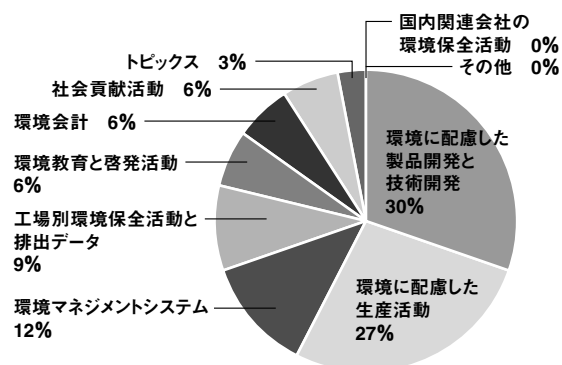
■回答者の内訳



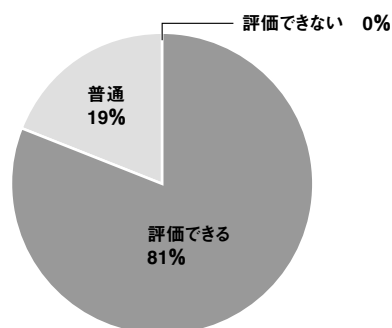
■報告書の感想



■印象に残ったこと、興味を持ったこと（複数回答）



■環境保全活動への評価



■評価できる点

〔環境保全活動〕

- 具体的な目標を明確にし、実績をあげている
- ISO14001を生かした活動が参考になった
- 豊田工場では残飯処理機を導入し活用している
- 社員が積極的に参加している
- 環境プログラムに基づいた活動がなされている
- 企業全体の環境保全に対する意識が高いと感じられる
- ゼロエミッションに積極的に取り組んでいる
- 前向きな姿勢がうかがえる

〔報告書〕

- 項目ごとに見やすくまとまっている
- 会社として積極的に取り組んでいる姿勢が理解できる
- 生産活動の中での環境保全活動が理解できた
- グラフ、図が見やすく工夫されている
- 工場別にデータをまとめている
- 各項目について細かく説明されている

〔その他〕

- 地域の社会貢献活動を実践している点が評価できる

■改善すべき点

- 文字が小さいため、見づらいところがある
- 環境保全活動推進者の声や取り組み内容を聞きたい
- 結果だけでなく、社会の動きを視野に入れた計画・予定を入れてほしい
- 海外を含めた内容にグレードアップを期待する
- データは「%」だけでなく、絶対量がどのように推移したのか知りたい

- 関連会社のデータを充実させてほしい
- もっと具体的な事例を多く載せてほしい
- 効果の表現方法をわかりやすくしてほしい
- 内容にメリハリをつけて、報告書として伝えたいことを明確にしてほしい

裏面アンケートにて、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

今後の環境保全活動、社会的活動ならびに次年度報告書作成に生かしてまいります。

なお、ご記入いただいた内容は、個人情報保護法に基づき適切に保護、管理いたします。

2005年9月

日本発条株式会社 企画本部広報部

FAX 045-786-7598

NHKニッパツ

日本発条株式会社

<http://www.nhkspg.co.jp/>